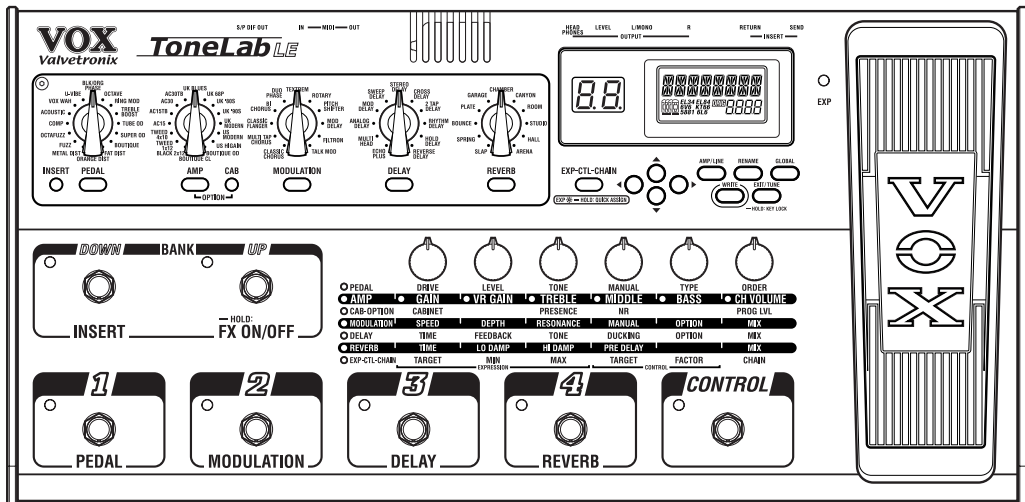


VOX

Valvetronix

ToneLab LE



取扱説明書

安全上のご注意




ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	⚠ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	🚫 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「分解禁止」を表しています。
	ⓘ 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- ❗ **AC/AC パワーサプライのプラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。**
- ❗ **AC/AC パワーサプライのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
感電やショート恐れがあります。
- ❗ **本製品はコンセントの近くに設置し、AC/AC パワーサプライのプラグが容易に手が届くようにする。**
- ❗ **次のような場合には、直ちに電源を切って AC/AC パワーサプライのプラグをコンセントから抜く。**
 - AC/AC パワーサプライが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。

- 🚫 **本製品を分解したり改造したりしない。**
- 🚫 **修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。**
- 🚫 **AC/AC パワーサプライのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、AC/AC パワーサプライのコードの上に重いものをのせない。**
コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 🚫 **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 🚫 **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- 🚫 **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- 🚫 **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- 🚫 **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- 🚫 **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**
- 🚫 **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- 🚫 **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- 🚫 **本製品に液体をこぼさない。**
- 🚫 **濡れた手で本製品を使用しない。**

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- ❗ **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- ❗ **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- ❗ **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- ❗ **AC/AC パワーサプライをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。**



- ・長時間使用しないときは、AC/ACパワーサプライをコンセントから抜く。



- ・付属のAC/ACパワーサプライは、他の電気機器で使用しない。
付属のAC/ACパワーサプライは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- ・他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしなない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- ・スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- ・外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- ・不安定な場所に置かない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- ・本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリ内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはMIDIデータ・ファイラーなどに保存しておいてください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

-
- * 記載されている会社名、製品名などは、各社の商標または登録商標です。
 - * MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

目次

クイックスタート	6
セットアップ	6
プログラムのサウンドを聴く	6
エフェクトのON/OFF	7
音作りをする	7
はじめに	9
ようこそ!	9
おもな特長	9
Valve Reactor (バルブ・リアクター) 技術について	10
ToneLab LEの概要	11
信号経路	11
モード	11
アンプやエフェクトの設定(エディット)	11
エクスプレッション・ペダル、[CONTROL]ペダルによるリアルタイムコントロール	11
プログラムの保存	11
MIDIやペダル操作の設定	11
ギタリストのためのパネル・ツアー	12
(各部の名称と機能)	12
トップ・パネル	12
リア・パネル	18
セットアップ	19
基本接続	19
S/P DIF端子を使用する場合	20
デジタル出力レベルの調整	20
MIDI機器/コンピュータを使用する場合	20
接続先の設定	21
演奏する	22
プログラム・セレクト・モード	22
プログラムを選ぶ	22
エフェクトON/OFFモード	22
エフェクトのON/OFFを切り替える	22
キーロック機能の設定/解除	23
キーロック機能の設定	23
キーロック機能の解除	23
音作りと保存	24
音作りをする	24
プリセット・プログラムを元に音を作る	24
新規に音を作る	24
エフェクトの接続順序を変更する(CHAIN)	25
3バンド・イコライザーを使用する	25
プログラムに名前を付ける(RENAME)	26
プログラムを保存する(WRITE)	26
プログラムに保存した値を確認する(オリジナル・バリュー)	26

アンプ/エフェクト・タイプの説明	27
A. AMPモデル	27
コントロール類について	27
ゲインとボリュームについて	27
真空管の話	27
パワーアンプの精度	28
B. CABINETモデル	30
キャビネット/スピーカーの精度	30
アンプとキャビネットの組み合わせ例	31
その他の推奨例	31
C. PEDALエフェクト	32
D. MODULATIONエフェクト	34
E. DELAYエフェクト	37
F. REVERBエフェクト	39
チューナー (バイパス、ミュート)	41
チューニングの方法	41
チューナーのキャリブレーション調整	41
エクスプレッション・ペダルによるコントロール	42
エクスプレッション・ペダルの設定	42
エクスプレッション・ターゲット・パラメーターのクイックアサイン	42
エクスプレッション・ターゲット・パラメーターの設定	42
エクスプレッション・ペダルによるコントロールの初期化設定 (EXP INIT)	43
[CONTROL]ペダルの設定	43
各エフェクトのON/OFF	43
TAP TEMPOによるパラメーターの設定	43
エフェクトのコントロール	43
FACTOR (バリュー・ツマミ[5]) の設定	44
ペダルの感度の調整	44
エクスプレッション・ペダルの調整	44
MIDIによるコントロール	45
MIDI機器/コンピュータとの接続	45
MIDIメッセージの設定	45
MIDIチャンネルを設定する (MIDI CH)	45
プログラム・チェンジ (PCHG OUT)	45
コントロール・チェンジ (CCHG I/O)	46
パラメーター・チェンジ (SYEX OUT)	46
プログラム・データのバックアップ/リストア	46
バックアップ	47
リストア	47
工場出荷時の状態に戻す (再ロード)	48
故障とお思いになる前に	49
MIDIインプリメンテーション・チャート	50
仕様	52
索引	53

クイックスタート

～「説明は後にして、とにかくギターを弾かせて!」と言いたい人のために～

ToneLab LEを一刻も早く使ってみたい人のために、このクイックスタートを用意しました。早速、ToneLab LEのサウンドをチェックしてください。そして、モデル・セレクト・セクションのセクターやスイッチ、バリュー・ツマミを操作して音作りの最初の一步に踏み込みましょう。

HINT 本書には、ToneLab LEを最大限に活用する上で役に立つ説明が書いてあります。このクイックスタートの手順を一通り終えて、とりあえずホッとしたら、必ず本書の残りをお読みください。

HINT 本書のp.12～の「各部の名称と機能」にToneLab LEのトップ・パネル、リア・パネル、ディスプレイの図がありますので、そちらを見ながら操作してください。

セットアップ

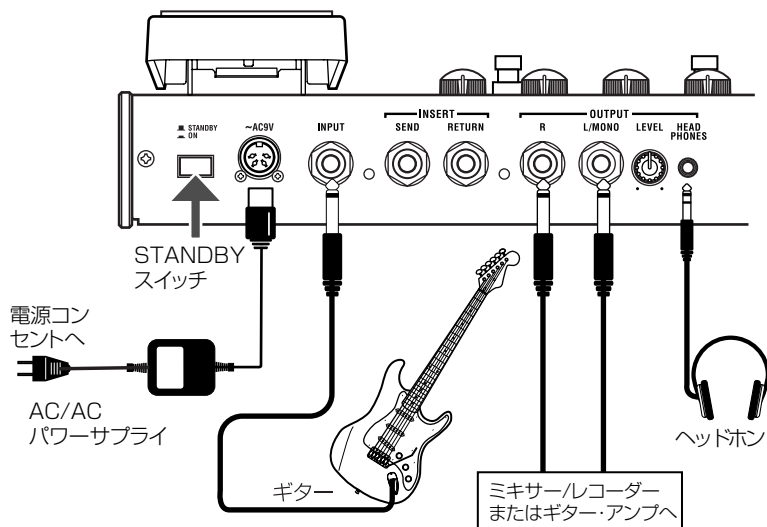
1. ToneLab LEをミキサーやレコーダーに接続するときは、OUTPUT端子のL/MONO、Rをミキサーやレコーダーの入力端子に接続します。またヘッドホンで音をモニターするときはHEADPHONES端子にヘッドホン接続します。

ToneLab LEをライブなどでギター・アンプに接続して使用するときは、OUTPUT端子のL/MONO、Rを、ギター・アンプの入力端子に接続します。

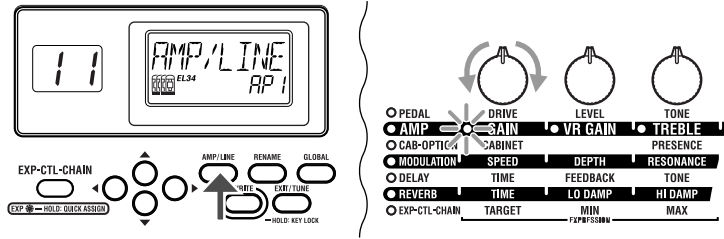
NOTE モノラル出力で使用する場合は、OUTPUT端子のL/MONOに接続してください。

2. 本機のリア・パネルの[LEVEL]ツマミを、リア側から見て左に回し切り、ボリュームを0にします。
3. 付属のAC/ACパワー・サプライをリア・パネルのAC9V電源端子に接続してから、プラグをコンセントに差し込みます。
4. ギターをリア・パネルの[INPUT] (インプット) 端子に接続します。
5. [STANDBY]スイッチをオンにして電源を入れます。

NOTE 電源立ち上げ時のノイズが聞こえないように、アンプやミキサーの音量は十分に下げておいてください。



6. ミキサーやレコーダーに接続したときは、[AMP/LINE]スイッチを押してAMP/LINEメニューを選び、バリュー・ツマミ[1]で“Ln1”、“Ln2” (LINE)に設定します。ギター・アンプに接続した場合は、“AP1”、“AP2”、“AP3” (AMP)のいずれかに設定します。



HINT アンプを接続する場合、アンプの種類に合わせて最適なものを選んでください。(→p.21)

HINT “Ln2” (LINE)に設定した場合、再生環境に合わせてアンプ・モデルの音質を補正するための3バンド・イコライザーを使用することができます。(→p.25)

7. アンプやミキサーの音量や本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミを上げて、音量を調整します。

NOTE 真空管が温まるまでの数秒間、音が出ない場合があります。これは故障ではありません。

プログラムのサウンドを聴く

8. BANK[UP]または[DOWN]ペダルを押してバンク1～30を選びます。

バンク・ディスプレイの数字が点滅し切り替わったことが確認できます。

HINT ToneLab LEには120のプログラムがあり、30バンクにそれぞれ4プログラム(30×4=120)を持ちます。工場出荷時には1～10バンクに40のプログラムが収録されています(11～20、21～30バンクのプログラムは1～10バンクのプログラムと同内容です)。これらはプログラム・セレクト・モードで選択することができます。その他、エフェクトON/OFFモードがあり、個々のエフェクトをオン、オフできます。

9. プログラム・セレクト[1]～[4]ペダルを押してプログラムを選びます。

選んだプログラムLEDが赤に点灯し、バンク・ディスプレイの数字も点灯に変わります。これでプログラムが選択できました。ギターを弾いてください。

例えば、3-1 (バンク3、プログラム1)のプログラムを選ぶには、BANK[UP]または[DOWN]ペダルを押してバンク・ディスプレイに“3”を表示し、プログラム・セレクト[1]ペダルを押してLEDを点灯させます。同じバンクのプログラムはプログラム・セレクト[1]～[4]ペダルを押すだけで切り替わります。

また、他のバンクのプログラムを選ぶ場合は、手順8、9の順番で選びます。

NOTE プログラムを選ぶことができない場合は、プログラム・セレクト・モード以外が選ばれています。「プログラム・セレクト・モード」(→p.22)を参照してモードを切り替えてください。

HINT プリセット・プログラムには、ファットで高ゲインの弾きやすいリードギター・サウンドや、フロント(またはリズム)・ピックアップにベストなクリーンなサウンド、またギターのリード・ピックアップ(ブリッジ側)にヘヴィーなリフがピタリなファットで攻撃的なモダン・クランチ・サウンドなど、さまざまなプログラムが入っています。

10. エクスプレッション・ペダルには、ワウやボリューム、ディレイ、リバーブへの入力レベル、その他エフェクトのパラメーターなど、各プログラム毎に最適な効果がアサインされています。また、[CONTROL]ペダルには、ディレイ・タイムのタップ・テンポ入力機能などがアサインされています。

11. BANK[UP]ペダルを1秒程、長押しするとBANK[UP]ペダルのLEDが緑に点灯し、エフェクトON/OFFモードに切り替わります。

エフェクトON/OFFモードでは、コンパクト・エフェクターを操作する感覚で、個々のエフェクトをON/OFFできます。プログラム・セレクト[1]～[4]がそれぞれペダル、モジュレーション、ディレイ、リバーブの各エフェクトのON/OFFに対応し、BANK[DOWN]ペダルがインサート・エフェクトのバイパスに対応します。

エフェクトのON/OFF

12. 各エフェクトのON/OFF状態は、モデル・セレクト・スイッチの点灯状態で確認できます。

点灯しているエフェクトはON、消灯しているエフェクトはOFFです。消灯しているスイッチを押すか、モデル・セクターを回すとエフェクトがONになり、モデル・セレクト・スイッチが点滅状態になります。点滅しているスイッチを押すとエフェクトがOFFになり、スイッチが消灯します。

音作りをする

13. 音作りは[MODEL]セクター、[MODEL]セレクト・スイッチ、バリュー・ツマミ[1]～[6]、を使用します。

アンプ・モデルの音作りをするには、[AMP]セクターで、好みのアンプ・モデルを16種類の中から選んでください。アンプ・モデルのエディット操作は、あなたが慣れ親しんでいるギター・アンプでサウンドを変化させるのとあまり変わりません。

GAIN (バリュー・ツマミ[1])、TREBLE (バリュー・ツマミ[3])、MIDDLE (バリュー・ツマミ[4])、BASS (バリュー・ツマミ[5]) やマスター・ボリュームにあたるVR GAIN (バリュー・ツマミ[2]) などを適宜調整します。ベストなひずみを得るには、できるだけVR GAINを上げることです。

CH VOLUME (バリュー・ツマミ[6]) は、Valve Reactorのひずみなどを含むトータルなサウンドを維持したまま、音量を調節することができます。

[AMP]スイッチを押しながら[CAB]スイッチを押すと、バリュー・ツマミ[3]でPRESENCEを、バリュー・ツマミ[4]でNR (ノイズ・リダクション) の効果を調整することができます。また、バリュー・ツマミ[6]でPROG LVL (プログラムの音量) を調整することができます。

[CAB]スイッチを押すと、バリュー・ツマミ[1]でキャビネット・モデルのタイプを変更することができます。アンプ・モデル、キャビネット・モデルのタイプを変えることは、突然目の前に異なるギター・アンプが現れるかのようです。

HINT 推奨するアンプ・モデルとキャビネット・モデルの組み合わせ例はp.31をご覧ください。

HINT オリジナル・アンプのサウンドを再現する場合、マスター・ボリューム・コントロールがないビンテージ・タイプのモデル (AC15、AC15TB、AC30、AC30TB、UK BLUES、UK 68P、BLACK 2x12、TWEED 1x12、TWEED 4x10) ではVR GAINを最大に上げてください。マスター・ボリューム・コントロール付きのモダン・タイプのモデルでは、マスター・ボリューム・コントロールを調整するのと同じようにVR GAINを調整します。VR GAINの設定が低いときは、プリアンプ・タイプのディストーションがかかり、高く設定するとValve Reactorのひずみと暖かみが増えます。

14. エフェクトは、アンプの前に配置されているPEDALエフェクトと、キャビネットの後に配置されているMODULATION、DELAY、REVERBの各エフェクトがあります。

例えば、PEDALエフェクトの“TREBLE BOOST”を使用する場合、[PEDAL]セクターを回して“TREBLE BOOST”を選びます。このときエディット・セクションのPEDALパラメーターLEDが点灯して、パラメーター・ライン (パラメーター名の書かれた帯) を示します。また各バリュー・ツマミの下のLEDが点灯し“TREBLE BOOST”で使用可能なバリュー・ツマミを示します。

この状態でバリュー・ツマミ[1]、[2]、[3]を回すと、DRIVE、LEVEL、TONEがそれぞれ調整できます。

バリュー・ツマミを回すとディスプレイにパラメーターが表示され、回したバリュー・ツマミのLEDが点滅します。

他のエフェクトも同様の操作で調整できます。

HINT エフェクトの設定によっては、出力音にひずみが生じる場合があります。このときは、PROG LVLを下げて調整してください。(→p.25)

はじめに

ようこそ!

このたびはVOX Valvetronix ToneLab LEをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ToneLab LEはレコーディングからライブ、またはヘッドホンでの練習まで幅広い用途でお使いいただけます。チューブ・アンプをモデリングしたその暖かみと調和のとれたサウンドをお楽しみください。

本製品を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保管してください。

おもな特長

- ToneLab LEは、Valve Reactor技術を採用し、通常プリアンプで使われている小型3極真空管12AX7 (ECC83)を使ったClass A、Class ABのパワーアンプ回路を搭載することによって、「本物のパワーアンプ・サウンド」を作り出し、オリジナル・アンプの感触やトーンを生み出します。
- 高度なモデリング・テクノロジーによるアンプ、キャビネット、エフェクトを搭載しています。往年のヴィンテージ・アンプや高価なハイエンド・チューブ・アンプなどのサウンドを、アンプ・モデル16、キャビネット・モデル11で再現できるほか、組み合わせによっては今までにないアンプ・サウンドを作り出すことも可能です。
- ハイクオリティなエフェクトを内蔵し、ToneLab LEだけで音作りが完結できます。アンプの手前にペダル・エフェクト16タイプ、キャビネットの後ろにモジュレーション・エフェクト、ディレイ・エフェクト、リバーブ・エフェクトを各11種類持ち、各タイプごとに1つずつを同時に使用できます。その他ノイズ・リダクションが使用できます。
- アンプやエフェクト・モデルを駆使したサウンドを1プログラムとして、120個のサウンドをプログラムとして保存することができます。プリセットとしてあらかじめ40種類のプログラムが用意されています。
- オート・クロマチック・チューナーを内蔵し、チューニングが可能です。
- ワウ・ペダルやボリューム・ペダル、他にもさまざまなエフェクトのパラメーターをコントロールできるエクスペッションペダルを装備し、ライブ・パフォーマンスなどに威力を発揮します。
- エクスペッション・ペダルへ簡単にパラメーターを割り当てることができるクイックアサイン機能を搭載しました。
- ディレイ・タイムのTAP TEMPOによる設定や、インサート・エフェクトのON/OFF、ロータリー・スピーカーの回転スピードの切り替えといった、さまざまなエフェクトのコントロールが可能なコントロール・ペダルを装備し、ライブ・パフォーマンスなどに威力を発揮します。
- エフェクト・インサートにより、外部エフェクトを接続し使用することができます。
- S/PDIF光デジタル出力端子やMIDI IN、OUT端子を装備し、拡張性に優れています。
- ToneLab LEのさまざまなパラメーターを視覚的に編集したり、プログラムの保存、管理などが行えるエディタ/ライブリアン・ソフトウェア「ToneLab LE Sound Editor」を使用することができます。入手方法や動作環境等の詳細については、コルグお客様相談窓口にお問い合わせください。なお、下記のWebサイトにてダウンロードすることができます。

* <http://www.korg.co.jp/KID/VOX/>

<http://www.voxamps.co.uk/>

Valve Reactor (バルブ・リアクター) 技術について

バルブ・リアクター技術とは、VOXアンプAD60/120VTではじめて採用された技術です。

ToneLab LEは、このValve Reactor回路をライン接続用にチューン・アップしたシステムを搭載しています。通常のライン接続用のモデリング・エフェクターは、実際には直接スピーカーを接続して使用することが無いため、パワーアンプ回路、OUTPUTトランスおよびスピーカーは搭載していません。つまり、プリアンプ回路のみによって構成されています。

ところが、本当のチューブ・アンプ・サウンドは、プリアンプのみでなくパワーアンプの歪みや、実際にパワーアンプがスピーカーを駆動した際に発生するインピーダンス変動によって作り出されます。

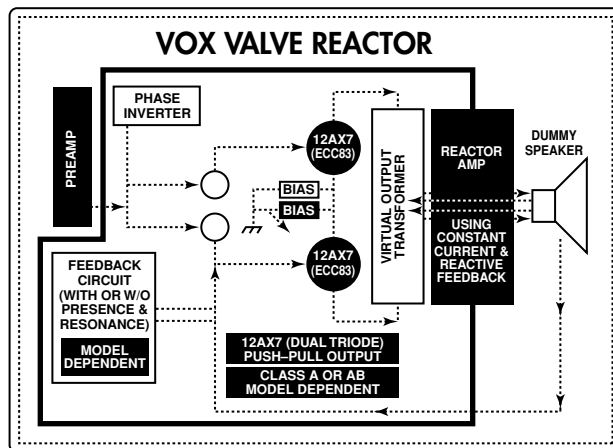
ToneLab LEは、実際に低いワットテージのチューブ・パワーアンプ回路と、OUTPUTトランスをソリッドステート部品でエミュレーションしたバーチャルOUTPUTトランス、それにスピーカーのインピーダンス変動をシミュレーションしたダミースピーカー回路を搭載しています。つまり、出力パワーは小さいながらも、実際のフル・チューブ・アンプと同じ回路構成になっています。

音作りとトーン・シェーピングのほとんどはデジタル領域で行いますが、Valve Reactorパワーアンプは100%アナログです。ギター信号がアナログ領域であるパワーアンプ段を通過することによって、モデルとなったオリジナル・アンプの感触やトーンを作り出す上で重要な役割を果たすことになります。

Valve Reactorのパワー段は真のチューブ、プッシュ/プル式パワーアンプのミニチュア版です。これは12AX7(ECC83)チューブ(デュアル三極管、つまり2つの真空管を1つにしたもの)を使用し、出力トランスフォーマーを搭載した真のチューブ・アンプと似ているといえます。

ToneLab LEのValve Reactorパワーアンプの出力は、内蔵のダミースピーカー回路の絶えず変化しているインピーダンス曲線を「読み取り」、この情報をバーチャルOUTPUTトランスフォーマーにフィードバックするように設計されています。この点も実際のチューブ・アンプと似ています。この情報によってアンプのチューブ段での動作がスピーカー・負荷(インピーダンス)に応じて変化します。これもまた、真のチューブ・アンプのサウンドを形成する大切な要因となっています。

生き生きとしたチューブ・サウンドを生み出すだけでなく、モデルとなったアンプのフル・チューブ・パワー段に独特の、様々な「回路特性」をシミュレートすることができます。この特性とは、A級、AB級、プレゼンス、レゾナンス(ロー・エンド)回路(いずれも一部チューブ・アンプの持つ負帰還回路に見られるもの)、パワー出力などです。このような特性を調整することにより、アンプ・モデルの一つ一つのサウンドが忠実に再現できるのです。この点が、「あのサウンドに近いけどやっぱり本物じゃない」という巷のデジタル・モデリング製品とは異なる部分です。



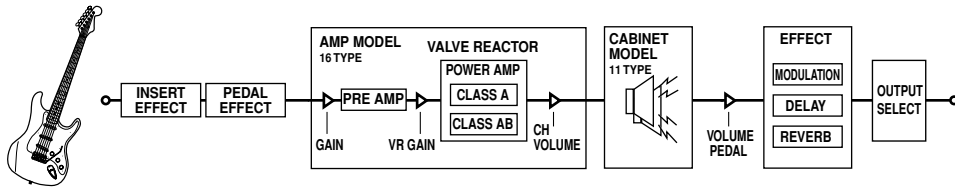
ToneLab LEの概要

ToneLab LEの全体像を確認しておきましょう。

信号経路

ToneLab LEに入力された信号は以下の順序で通過していきます。

「ギタリストのためのパネル・ツアー（各部の名称と機能）」(p.15)の説明と照らし合わせてご覧ください。



モード

ToneLab LEには、プログラムを切り替えるためのプログラム・セレクト・モードと、個々のエフェクトをON/OFFするためのエフェクトON/OFFモードがあります。これらのモードは演奏中であってもBANK[UP] (FX ON/OFF) ペダルによって切り替えることができます。

アンプやエフェクトの設定（エディット）

5つのモデルセレクターと6つのバリュー・ツマミ、スイッチなどを使って直感的にアンプやエフェクトの設定を変更できます。また、CHAIN機能を使って、モジュレーション、ディレイ、リバーブの各エフェクトを接続する順序を変更できます。CHAIN機能の設定は[EXP-CTL-CHAIN]スイッチを使います。

エクスプレッション・ペダル、[CONTROL]ペダルによるリアルタイムコントロール

エクスプレッション・ペダルと[CONTROL]ペダルによって、ワウ、ボリューム、エフェクト・パラメーターを足元でコントロールできます。コントロール対象の設定は[EXP-CTL-CHAIN]スイッチを使います。

プログラムの保存

アンプやエフェクト、エクスプレッションなどの設定をまとめて1つのプログラムとして保存できます（[WRITE]スイッチ）。保存する際には[RENAME]スイッチを使ってプログラムに名前をつけておくと便利です。保存したプログラムはプログラム・セレクト・ペダルで瞬時に呼び出すことができます（プログラム・セレクト・モード時）。

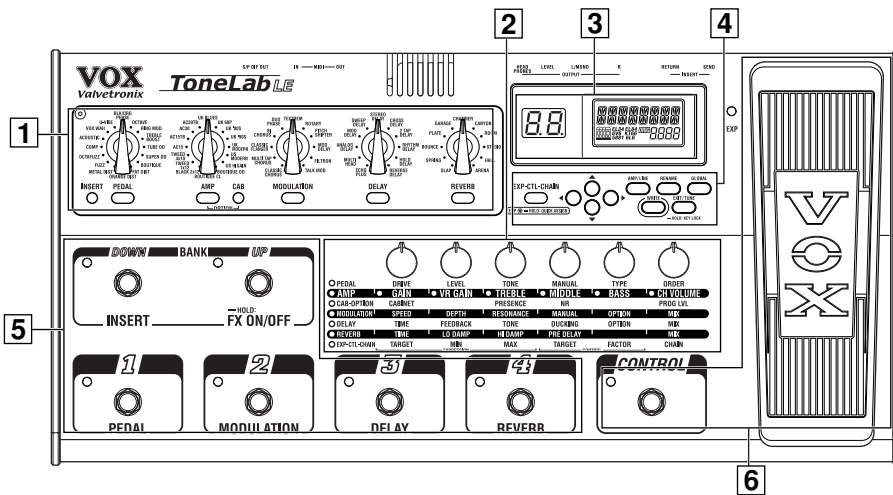
MIDIやペダル操作の設定

[GLOBAL]スイッチでは、MIDIに関する設定やプログラムチェンジ時のペダル動作の設定を行いません。ここでの設定は、自動的にToneLab LE内部に保存されるのでWRITE操作は不要です。

ギタリストのためのパネル・ツアー (各部の名称と機能)

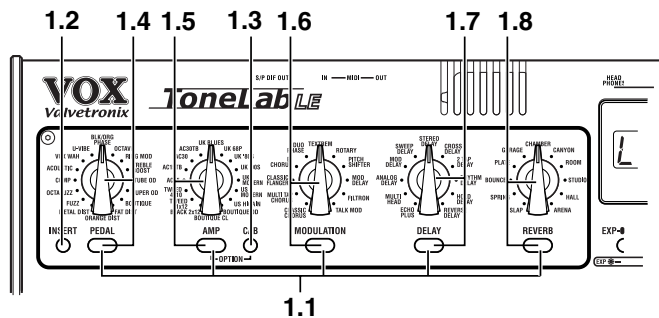
ここではToneLab LEのトップ、リア・パネル上のスイッチや端子類について説明します。

トップ・パネル



1 モデル・セレクト・セクション

アンプやエフェクトのモデルの選択を行ないます。



1.1 モデル・セレクト・スイッチ

バリュー・ツマミ[1]~[6]でエディットするエフェクトを選ぶときや、エフェクトのON/OFFを切り替えるときに使用します。使用しているエフェクトが、ONの場合は点灯(エディット時は点滅)、OFFの場合は消灯します。

一度押すとスイッチが点滅し、そのエフェクトのパラメーターがバリュー・ツマミ[1]~[6]で調整できます。ONになっているエフェクトをOFFにする場合は、そのエフェクトのモデル・セレクト・スイッチを一度押し(点滅)、さらにもう一度モデル・セレクト・スイッチを押すとOFF(消灯)になり、ネーム・ディスプレイに[-OFF-]が表示されます。

ペダル・エフェクトはアンプ・モデルの前に配置されています。

モジュレーション、ディレイ、リバーブは、キャビネット・モデルの後ろに配置されています。

1.2 [INSERT](インサート)スイッチ

エフェクト・インサートのON/OFFを切り替えるときに使用します。INSERT端子に接続した外部エフェクトへの信号の入出力がONの場合は点灯、OFFの場合は消灯します。外部エフェクトはペダル・エフェクトの前に配置されます。

1.3 [CAB](キャビネット)スイッチ

キャビネット・モデルの変更やON/OFFを切り替えるときに使用します。このスイッチが点滅しているときは、バリュー・ツマミ[1]でキャビネット・モデルの設定を変更することができます。

[AMP]スイッチを押しながら[CAB]スイッチを押すと、バリュー・ツマミ[3]でプレゼンスの設定を、バリュー・ツマミ[4]でノイズ・リダクションの設定を変更することができます。また、バリュー・ツマミ[6]でプログラムの音量を調整することができます。

1.4 [PEDAL](ペダル)セレクター、セレクト・スイッチ

ペダル系エフェクトを16種類のペダル・エフェクト・タイプから選びます。[PEDAL]セレクターを操作すると[PEDAL]セレクト・スイッチが点滅し、バリュー・ツマミ[1]~[6]でペダル・エフェクトのパラメーターが調整できます。(詳細はp.32~を参照してください。)ペダル系エフェクト(PEDAL)は、アンプの前に接続されます。

NOTE エフェクトのタイプを変えると、パラメーターの値が初期化されます。

1.5 [AMP](アンプ)セレクター、セレクト・スイッチ

伝説的なVOX AC30TBXをはじめとするクラシックなチューブ・アンプを忠実に再現した16種類のモデルからアンプ・モデルを選びます(詳細はp.27~を参照してください)。[AMP]セレクターを操作すると[AMP]セレクト・スイッチが点滅し、バリュー・ツマミ[1]~[6]でアンプのパラメーターを調整できます。[AMP]セレクト・スイッチを押しながら[CAB]スイッチを押すと、バリュー・ツマミ[3]でプレゼンスの設定を、バリュー・ツマミ[4]でノイズ・リダクションの設定を変更することができます。また、バリュー・ツマミ[6]でプログラムの音量を調整することができます。

ブリアンプ、パワーアンプの動作(A、AB級)、トーン・コントロールの特性や回路上の配置は、ここで選んだアンプのタイプに従って切り替わり、それぞれのアンプ特有の動作となります。オリジナル・アンプのブリアンプ回路のゲイン/トーン特性を正確に再現しただけでなく、パワーアンプの動作(A、AB級)、負帰還回路など、重要なパワーアンプ段も入念に再現しています。

1.6 [MODULATION](モジュレーション)セレクター、セレクト・スイッチ

モジュレーション系エフェクトを11種類のモジュレーション・エフェクト・タイプから選びます。[MODULATION]セレクターを操作すると[MODULATION]セレクト・スイッチが点滅し、バリュー・ツマミ[1]~[6]でモジュレーション・エフェクトのパラメーターが調整できます。(詳細はp.33~を参照してください。)

NOTE エフェクトのタイプを変えると、パラメーターの値が初期化されます。

1.7 [DELAY](ディレイ)セレクター、セレクト・スイッチ

ディレイ系エフェクトを11種類のディレイ・エフェクト・タイプから選びます。[DELAY]セレクターを操作すると[DELAY]セレクト・スイッチが点滅し、バリュー・ツマミ[1]~[6]でディレイ・エフェクトのパラメーターが調整できます。(詳細はp.35~を参照してください。)

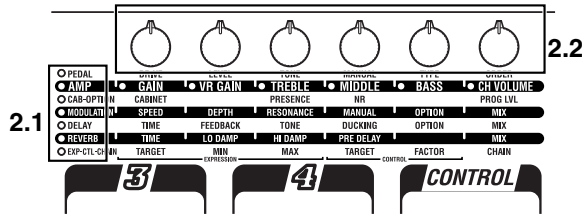
NOTE エフェクトのタイプを変えると、パラメーターの値が初期化されます。

1.8 [REVERB](リバーブ)セレクター、セレクト・スイッチ

リバーブ系エフェクトを11種類のリバーブ・エフェクト・タイプから選びます。[REVERB]セレクターを操作すると[REVERB]セレクト・スイッチが点滅し、バリュー・ツマミ[1]~[6]でリバーブ・エフェクトのパラメーターが調整できます。(各エフェクトの説明はp.37~を参照してください。)

NOTE エフェクトのタイプを変えると、パラメーターの値が初期化されます。

2 エディット・セクション



2.1 エフェクト・カテゴリーLED

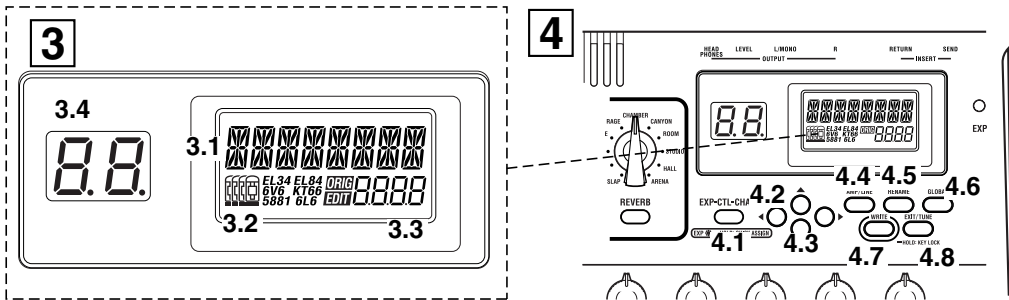
エディット中のエフェクトのカテゴリーを示すLEDが点灯します。
パラメーターを調整するときにはLEDの点灯しているラインのパラメーター名を参考にします。

2.2 バリュー・ツマミ[1]～[6]

エフェクトやアンプ・モデルのパラメーターを調整します。[MODEL]セレクト・スイッチで選択した(スイッチが点滅している)エフェクトが対象となり、ツマミの下のLEDが点灯して、使用可能なツマミを示します。ネーム・ディスプレイに表示されるパラメーターに対応するツマミのLEDが点滅します。各ツマミに対応するパラメーターの内容はp.27～を参照してください。(左からバリュー・ツマミ[1]～[6]です。)

[EXP-CTL-CHAIN]スイッチが点滅しているときはそれぞれの機能を設定します。
RENAMEやGLOBALでの各設定時またはWRITE操作時は、バリュー・ツマミ[6]を使って、値やWRITEするプログラムの番号を変えることができます。

3 ディスプレイ・セクション



3.1 ネーム・ディスプレイ

プログラム名、エフェクト名、パラメーター名などを表示します。

3.2 バルブ・アイコン

モデルとなったオリジナルのアンプで使用されているパワー管(パワー段で使用される真空管)の数と型番を表示します。

3.3 バリュー・ディスプレイ

パラメーターの値を表示します。表示しているパラメーターの値が、変更前の値(プログラムに保存してある値)と一致しているときは、[ORIG](オリジナル・バリュー)アイコンが表示されます。

HINT 電源を入れた直後やプログラムを変更したときは、AMP/LINE設定の状態がバリュー・ディスプレイに表示されます。

3.4 バンク・ディスプレイ

バンク・ナンバーを表示します。チューナー起動中は音名を表示します。

4 セッティング/グローバル・セクション

4.1 [EXP-CTL-CHAIN] (エクスプレッション、コントロール、チェーン) スイッチ

エクスプレッション・ペダルや[CONTROL]ペダルの設定や、モジュレーション、ディレイ、リバーブのエフェクトの接続順を決めるチェーンの設定を行うときに使用します。

バリュー・ツマミ[1]～[3]を使ってエクスプレッション・ペダルのターゲット・パラメーターとコントロール範囲の設定をします。

バリュー・ツマミ[4]、[5]を使って[CONTROL]ペダルのターゲット・パラメーターとFACTORの設定をします。バリュー・ツマミ[6]でチェーンの設定を行います。

[▲]、[▼]スイッチを使って値を変更することもできます。

また、エフェクトのエディット中に点灯している場合は、このスイッチを操作することでエクスプレッション・ペダルのクイックアサインができます。

HINT **クイックアサイン:** ネーム・ディスプレイに表示されているパラメーターを、エクスプレッション・ペダルにアサインしたい場合は[EXP-CTL-CHAIN]スイッチを1秒間押します。アサインが完了するとネーム・ディスプレイに“COMPLETE”と表示されます。(p.42)

4.2 [▲], [▼]スイッチ

パラメーターの値を変更するときに使います。

4.3 [◀], [▶]スイッチ

エディットするパラメーターの選択や、プログラム名の変更をするときに使います。

4.4 [AMP/LINE] (アンプ/ライン) スイッチ

ToneLab LEの出力先に関する設定をします。

“Ln2” 選択時には、アンプ・モデルの音質補正用の3バンド・イコライザーが使用できます。

4.5 [RENAME] (リネーム) スイッチ

プログラム名を変更するときに使用します。(p.26)

[◀]、[▶] を使って表示桁を変更し、バリュー・ツマミ[6]や[▲]、[▼]スイッチを使って文字を変更します。

4.6 [GLOBAL] (グローバル) スイッチ

ペダルやMIDI、デジタル出力に関する設定をします。

[GLOBAL]スイッチを押して、[◀]、[▶]スイッチを押すと、押すたびに下記の順でメニューが切り替わります。メニュー選択後、バリュー・ツマミ[6]や[▲]、[▼]スイッチを使って値を変更します。

EXP INIT : プログラム変更時のエクスプレッション・ペダルの動作設定(p.43)

MIDI CH : MIDIチャンネルの設定(p.45)

PCHG OUT: プログラム・チェンジ・メッセージの出力設定(p.45)

CCHG I/O: コントロール・チェンジ・メッセージの入出力設定(p.46)

SYEX OUT: システム・エクスクルーシブ・メッセージの出力設定(p.46)

DUMP CUR: 現在のプログラム・データをMIDI OUT端子から出力(p.47)

DUMP ALL: 本機のすべてのデータをMIDI OUT端子から出力(p.47)

DOUT LVL : デジタルアウトの出力レベルを設定(p.20)

4.7 [WRITE] (ライト) スイッチ

音作りをした設定を保存するときに使用します。(p.26)

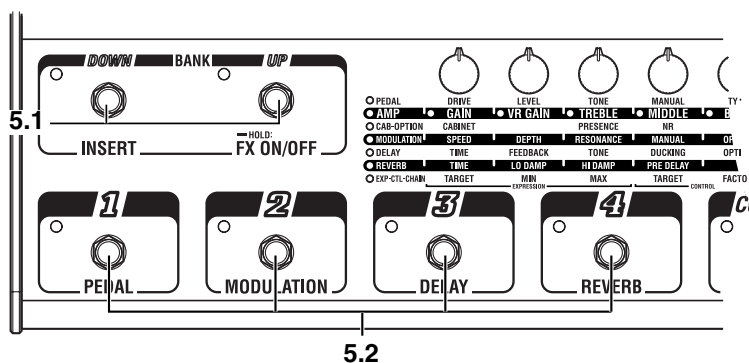
4.8 [EXIT/TUNE] (イグジット/チューナー) スイッチ

プログラムの保存を中止したり、グローバルの設定操作を中止するときなどに使用します。

また、長く押すことでスイッチ/セレクター/ツマミでの操作を無効にするキーロック機能の設定/解除を行うことができます。(p.23)

ネーム・ディスプレイにプログラム名を表示しているときに、このスイッチを押すと、チューナーが起動します。(p.41)

5 バンク/プログラム・セレクト・セクション



5.1 BANK[UP]/[DOWN] (バンクアップ/バンクダウン) ペダル

プログラム・セレクト・モードでは、BANK[UP]ペダルを押すとバンクが1つ上がり、BANK[DOWN]ペダルを押すとバンクが1つ下がります。

プログラム・セレクト・モードでBANK[UP]ペダルを長く押すと、ペダル左上のLEDが緑に点灯し、エフェクトON/OFFモードに切り替わります。このとき、BANK[DOWN]ペダルを押すと、INSERT端子に接続した外部エフェクトのインサートのON/BYPASSを切り替えます。

エフェクトON/OFFモードで、BANK[UP]ペダルを押すと、プログラム・セレクト・モードになります。

5.2 プログラム・セレクト・ペダル、プログラムLED

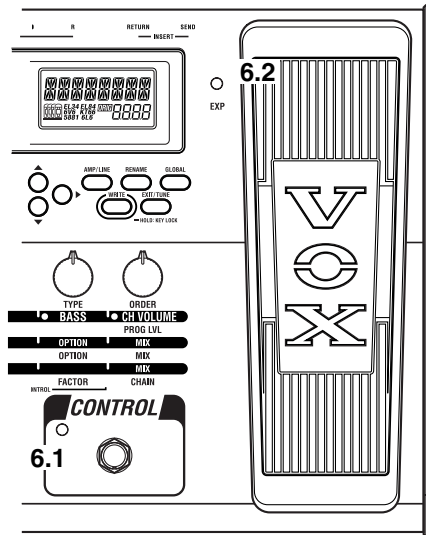
プログラム・セレクト・モードでは、プログラムを選択します。それに合わせて各プログラム・セレクト・ペダルの左上のプログラムLEDが赤に点灯します。

エフェクトON/OFFモードのときは、ペダル・エフェクト、モジュレーションエフェクト、ディレイ・エフェクト、リバーブ・エフェクトを個別にON/OFFします。オン時はLEDが緑に点灯します。

プログラム・セレクト・モードで、現在選択しているプログラムのペダルを0.5秒程長く押すと、プログラムLEDが点滅し、すべてのエフェクトがバイパスになります。さらに1秒以上押すと、出力がミュートされます。バイパス、ミュート中は、チューナーが動作します。

バイパス、ミュートを解除するには、プログラムLEDが点滅しているペダルを再度押します。

6 エフェクトコントロール・セクション



6.1 [CONTROL] (コントロール) ペダル

[CONTROL]ペダルのターゲット・パラメーター設定で割り当てた機能に従い、エフェクトのコントロールをします。

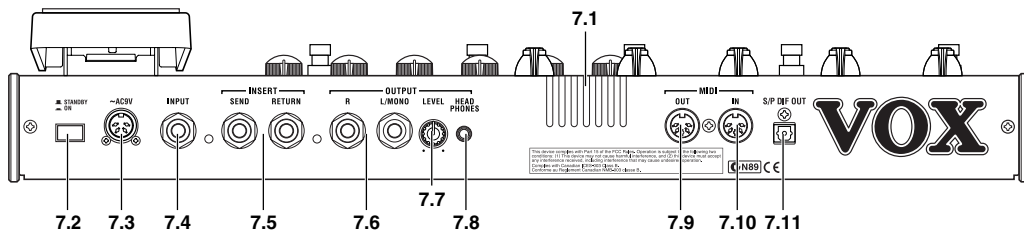
6.2 エクスプレッション・ペダル

エクスプレッション・ペダルのターゲット・パラメーター設定で割り当てた機能に従い、ボリュームやワウ、その他エフェクトのパラメーターをコントロールします。強く踏み込んでペダル下のスイッチを押すと、割り当てたエフェクトのON/OFFを切り替えることができます。(ボリュームやアンプのパラメーターを割り当てたときは除きます。)

ペダル横のLEDは、ペダルにボリュームを割り当てたときはオレンジに、エフェクトのパラメーターを割り当てたときは緑に点灯します。コントロールするエフェクトがOFFのときは消灯します。

リア・パネル

7 リア・パネル・セクション



7.1 バルブ

真空管 12AX7(ECC83)が内蔵されています。

NOTE バルブは、衝撃を与えると割れる場合があります。特に直接的な衝撃には注意してください。

7.2 [STANDBY]スイッチ

電源を入れたり、切ったりします。

7.3 ～AC9V

付属のAC/ACパワー・サプライを接続します。

7.4 INPUT 端子

ギターを接続します。

7.5 INSERT 端子(SEND、RETURN)

外部エフェクターを接続します。SENDは外部エフェクターの入力と接続します。RETURNは外部エフェクターの出力と接続します。

7.6 OUTPUT 端子(L/MONO、R)

アナログ出力端子です。モノラルで出力するときはL/MONOに接続します。

7.7 [LEVEL]ツマミ

OUTPUT 端子、HEADPHONES 端子の出力レベルを調整します。

7.8 HEADPHONES 端子(ステレオ)

ヘッドホンを接続します。

7.9 MIDI OUT 端子

MIDIデータを送信する端子です。接続した外部MIDI機器をコントロールするときに使用します。

7.10 MIDI IN 端子

MIDIデータを受信する端子です。接続した外部MIDI機器から、本機をコントロールするときに使用します。

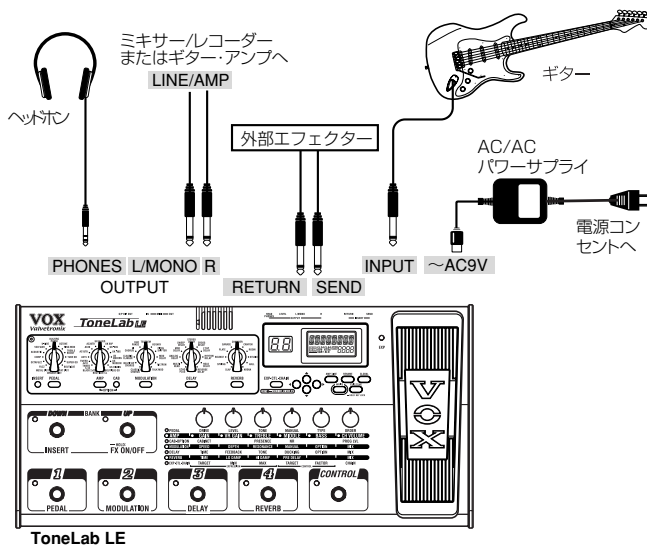
7.11 S/P DIF OUT 端子

S/PDIF出力用の光デジタル端子です。

セットアップ

基本接続

NOTE 各接続は必ず電源オフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、スピーカー・システム等を破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。



1. ToneLab LEのOUTPUT L/MONO, R端子と、ミキサー/レコーダーやギターアンプ等をケーブルで接続します。好みに応じて外部エフェクターを接続します。SEND端子に外部エフェクターの入力を、RETURN端子に外部エフェクターの出力を接続してください。

HINT モノラルで接続する場合は、OUTPUT L/MONO端子に接続してください。ToneLab LEの音質を活かすためにも、ステレオ接続をおすすめします。

ヘッドホンを使う場合は、HEADPHONES端子にヘッドホンのプラグを挿入してください。

NOTE ヘッドホンを接続しても、OUTPUT端子からの出力はカットされません。

2. 本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミをリア側から見て左に回し切り、ボリュームを0にします。
3. 付属のAC/ACパワー・サプライをリア・パネルのAC9V電源端子に接続してから、プラグをコンセントに差し込みます。
4. ギターをリア・パネルの[INPUT] (インプット) 端子に接続します。
5. [STANDBY]スイッチをオンにして電源を入れます。

NOTE 電源立ち上げ時にノイズが聞こえないようにアンプやミキサーの音量は十分に下げてください。

6. ミキサー/レコーダーなどに接続する場合は、[AMP/LINE]スイッチを押してボリューム・ツマミ[1]または[▲]、[▼]スイッチで“AMP/LINE”を“Ln1”または“Ln2”に設定してください。ギター・アンプに接続する場合は“AP1”～“AP3” (AMP) のいずれかに設定します。(→p.21)

HINT ヘッドホンだけを使用して演奏する場合は、“AMP/LINE”の設定は“Ln1”または“Ln2”を選択してください。

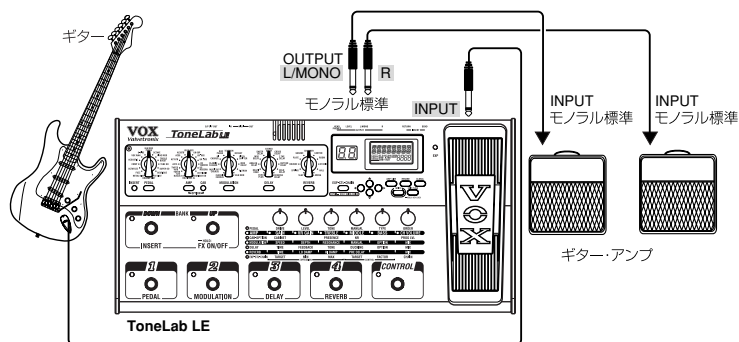
7. アンプやミキサー、本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミを適宜上げて、音量を調整します。

NOTE 本機は真空管を使用しているため、真空管が温まるまでの数秒間、音が出ないことがあります。これは故障ではありません。

HINT コンポアンプやヘッドに本機を直接接続する場合は、ギター・アンプ側のトーンをセンターに、そしてサウンドが歪まないように設定してから、ToneLab LEをバイパスにし、ギターをダイレクトにアンプに接続した場合の音量と合うように、リア・パネルの[LEVEL]ツマミを調整してください。

HINT パワーアンプへ直接接続できる端子 (ReturnやMain Inなど) を持つギター・アンプと接続する場合は、AMP/LINEを“Ln1”または“Ln2”に設定し、それらの端子に接続してください。また、接続したアンプ(+キャビネット)の特性を生かしたいときはCABINETを“OFF”に設定してもよいでしょう。

HINT プログラム名が表示されている場合に[EXIT/TUNE]スイッチを1秒間長押しすると、スイッチ/セレクター/ツマミの操作を無効にするキーロック機能を設定することができます。解除する場合は、[EXIT/TUNE]スイッチを1秒間長押ししてください。(→p.23)



S/P DIF端子を使用する場合

S/P DIF端子を使って、レコーダー等の機器とデジタル信号での接続ができます。

デジタル出力レベルの調整

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. [▶]スイッチを押して、ディスプレイに“DOUT LVL”を表示します。
3. S/P DIF端子からの出力レベルを選択します。バリュー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチで設定します。

HINT “-12”～“+12”の範囲で設定できます。“0”(0dB)が標準です。レベルを“0”以上に上げるとプログラムによっては音が歪んでしまうことがあります。

MIDI機器/コンピュータを使用する場合

MIDIを使うことによって、シーケンサーなどから本機をコントロールしたり、本機から外部MIDI機器をコントロールすることができます。また、MIDIエクスクルーシブ・データが送受信できるシーケンサーやMIDIデータ・ファイラーにプログラムを保存し、本機にロードすることができます。

HINT MIDIに関する接続方法はp.45を参照してください。

接続先の設定

ギターアンプに接続するかミキサー/レコーダー等に接続するかを設定します。これはアンプ・モデルからの出力を、接続先に応じて必要な補正を行うためです。

1. [AMP/LINE]スイッチを押して“AMP/LINE”を表示します。表示が異なる場合は[◀]、[▶]スイッチを使って“AMP/LINE”を表示します。
2. バリュー・ツマミ[1]または[▲]、[▼]スイッチを使って値を変更します。
 - AP1: US製オープンバックのコンボアンプなどにみられる、クリーンサウンドを得意とするアンプに接続する場合。
 - AP2: UK製オープンバックのコンボアンプなどにみられる、中域にクセがあるアンプに接続する場合。
 - AP3: 4x12クローズドバック・キャビネットなど、スタック・タイプのアンプに接続する場合。
 - Ln1: S/P DIF OUTを使用するときやギター・アンプのパワーアンプ入力やレコーダーをライン出力に接続する場合。
 - Ln2: 3バンド・イコライザーを使用し、好みの音色に補正してライン出力する場合。(p.25)

NOTE “AMP/LINE”の設定は、アンプ・モデルがオフのときには無効になります。

NOTE 接続するアンプは代表的な例です。アンプの種類、設定によっては最適な設定が異なる場合があります。

演奏する

プログラム・セレクト・モード

プログラムはプログラム・セレクト・モードのときに選びます。
120のプログラム(30バンク×4プログラム)があり、これらのプログラムはすべて書き替えが可能です。
工場出荷時は1～10バンクの各プログラムにプリセット・プログラム(合計40)が入っています。
(バンク11～20、21～30にはバンク1～10と同じプリセット・プログラムが入っています。)

プログラムを選ぶ

例としてプログラム2-3(バンク2のプログラム3)を呼び出しましょう。

1. プログラム・セレクト・モードであることを確認します。
BANK[UP]ペダルのLEDが緑に点灯しているときは、エフェクトON/OFFモードが選ばれています。
BANK[UP]ペダルを押して、プログラム・セレクト・モードにしてください。プログラム・セレクト・モードのときはBANK[UP]、[DOWN]ペダルのLEDが消灯します。
2. BANK[UP]、[DOWN]ペダルを押してバンク2を選びます。
バンク・ディスプレイのバンク・ナンバーが点滅します。
3. プログラム・セレクト[3]ペダルを押します。
プログラム2-3が呼び出されます。このときプログラム・セレクト[3]ペダルのLEDが点灯し、バンク・ナンバーも点灯に変わります。

HINT バンクを選択しただけでプログラムを選択していない状態では、バンクを選ぶ前に選択していたプログラムがまだ有効になっています。このため、ライブなどでプログラムを切り替えるときは、バンクを早めに選択しておいてからタイミングよくプログラムを選ぶと、スムーズなプログラムの切り替えができます。

エフェクトON/OFFモード

プログラム・セレクト・ペダル1～4を使って、現在演奏しているプログラムのペダル・エフェクト、モジュレーション・エフェクト、ディレイ・エフェクト、リバーブ・エフェクトを個別にON/OFFすることができます。また、BANK[DOWN]ペダルを使って、INSERT端子に接続した外部エフェクトへの信号の入出力をON/OFFすることができます。

HINT アンブ・モデルをON/OFFするには、[CONTROL]ペダルを使用することができます。(→p.43)

HINT プログラムを変更する場合は、BANK[UP]ペダルを再度押してプログラム・セレクト・モードに戻ります。

エフェクトのON/OFFを切り替える

例として、演奏中のプログラムのエフェクトのペダル・エフェクトとINSERTのON/OFFを切り替えます。

1. BANK[UP]、[DOWN]ペダルのLEDが消灯しているときは、プログラム・セレクト・モードが選ばれています。BANK[UP]ペダルを1秒間押すと、BANK[UP]ペダルのLEDが緑に点灯し、エフェクトON/OFFモードになります。
プログラムLED1～4、BANK[DOWN]ペダルのLEDは、それぞれペダル・エフェクト、モジュレーション・エフェクト、ディレイ・エフェクト、リバーブ・エフェクト、インサート・エフェクトのON/OFFを表示します。
2. プログラムLED1が点灯しているときは、ペダル・エフェクトがONになっています。プログラム・セレクト・ペダル1を押すと、ペダル・エフェクトがOFFになりプログラムLED1が消灯します。
3. BANK[DOWN]ペダルのLEDが消灯している場合は、外部エフェクトへの信号の入出力がOFFになります。BANK[DOWN]ペダルを押すと、BANK[DOWN]ペダルのLEDが点灯し、INSERT端子に接続した外部エフェクトへの入出力がONになります。

NOTE INSERT RETURN端子にケーブルを接続していないときは、[INSERT]スイッチのLEDの点灯、消灯に関わらず、常にINPUT端子の入力が有効になります。

キーロック機能の設定/解除

ライブでの使用の場合などに、スイッチ、セクター、ツマミなどを誤って動かしてしまわないように、以下の手順でキーロック機能を設定することができます。

NOTE キーロック機能を設定した場合は、ペダル、[EXIT/TUNE]スイッチ以外の操作はできません。

NOTE キーロック機能の設定は、電源をオフにすると自動的に解除されます。

キーロック機能の設定

1. ネーム・ディスプレイにプログラム名以外の表示がされている場合や、プログラム名の文字が点滅している場合は[EXIT/TUNE]スイッチを押してください。
2. ネーム・ディスプレイにプログラム名が表示されている状態で[EXIT/TUNE]スイッチを1秒間押してください。
ネーム・ディスプレイに1秒間“KEY LOCK”と表示され、バリュー・ツマミのLEDが消灯します。

キーロック機能の解除

1. ネーム・ディスプレイにプログラム名以外の表示がされている場合は[EXIT/TUNE]スイッチを押してください。
2. [EXIT]スイッチを1秒間押してください。
ネーム・ディスプレイに1秒間“LOCK OFF”と表示され、バリュー・ツマミのLEDが点灯します。

音作りと保存

音作りの方法には、作りたい音に近いプリセット・プログラムなど既存のプログラムを元にして、必要な部分を変更して目的の音を作り上げていく方法と、白紙の状態（ゼロ）から作り上げていく方法があります。

音作りをする

プリセット・プログラムを元に音を作る

既存のプログラムを元にして音作りをしていく場合は、作りたい音に近いプログラムを選び、モデル・セレクト・スイッチで調整したいエフェクトを選んで、バリュー・ツマミ[1]～[6]でエフェクトを調整していきます。例えば、モダンなクランチ・リズム・サウンドを元に、ゲインをアップさせ、もっとラウドな中域を強調したコンテンツポラリーなリード・サウンドを作るといった具合です。

新規に音を作る

ここでは白紙の状態（ゼロ）から作る方法を説明します。

NOTE 必ずp.21の「接続先の設定」に従って、AMP/LINEを正しく設定した上で、以下の操作を行ってください。

1. 任意のプログラムを選びます。（p.22）
HINT ゼロから音作りをしますので、どのプログラムでもかまいません。
2. PEDAL、MODULATION、DELAY、REVERBセクションの、点灯しているモデル・セレクト・スイッチを2度押しして、アンプ・モデル以外のエフェクトをOFF（バイパス）にします。
3. [AMP MODEL]セクターで、使用したいアンプを選びます。
HINT アンプ・モデル、キャビネット・モデルやエフェクト・タイプの詳細については「アンプ/エフェクト・タイプの説明」（p.27）を参照してください。
4. バリュー・ツマミ[1]～[6]で、GAIN、VR GAIN、TREBLE、MIDDLE、BASS、CH VOLUMEを調整します。CH VOLUMEは、パワー一段の歪みなどトータルなサウンドを維持したまま音量を変化させます。PRESENCEを調整するときは、[AMP]セレクト・スイッチを押しながら[CAB]セレクト・スイッチを押し、バリュー・ツマミ[3]で設定します。GAINなどの調整に戻るには、[AMP]セレクト・スイッチを押しします。
HINT ベストな歪みを得るには、できるだけVR GAINを上げてください。
NOTE エフェクトの設定によっては、出力音に歪みが生じる場合があります。この場合CH VOLUMEを下げて調整してください。
5. [CAB]スイッチを押し、バリュー・ツマミ[1]でキャビネットを選びます。
HINT アンプ・モデルとキャビネット・モデルの推奨する組み合わせについては、p.41を参照してください。
6. [AMP]スイッチを押しながら[CAB]スイッチを押し、NR SENS（バリュー・ツマミ[4]）を調整します。ノイズ・リダクションは値（0.2、0.4、...、10.0）が大きいほど効果が強くなります。“OFF”にすると効果が無くなります。
NOTE アンプ・モデルに“US MODERN”や“US HIGAIN”などのハイ・ゲイン設定を使用する場合はノイズ・リダクションをおすすめします。ハイ・ゲインはノイズにつながるからです。使用するギターによっては、ノイズ・リダクションの値を上げすぎると、音が途切れることがあります。
7. 各セクションから追加するエフェクトを1つ選択し調整します。例えばスプリング・リバーブを加える場合、[REVERB]セクターで“SPRING”を選択します。
HINT このときリバーブ・タイプが自動的にONになり、エディット・セクションのREVERBパラメーター・ラインLEDとREVERBパラメーターに対応するバリュー・ツマミ下のLEDが点灯します。例えば、SPRINGのパラメーターはバリュー・ツマミ[1]から[4]が、TIME、LO DAMP、HI DAMP、PRE DELAYバリュー・ツマミ[6]がMIXになります。
8. リバーブのミックス量を調整するには、MIXパラメーターに対応するバリュー・ツマミ[6]を調整します。PEDAL、MODULATION、DELAYの各エフェクトも同様に、セクターでエフェクトを選び、バリュー・ツマミでパラメーターを調整します。

HINT PEDALエフェクトは、モジュレーション、ディレイ、リバーブが入っていないサウンドの方が調整しやすい場合があります。PEDALエフェクトを使う場合はアンプやキャビネットを設定した後、他のエフェクトより先に調整すると良いでしょう。

NOTE パラメーターの名称が、エディット・セクションのパラメーターラインに書かれているものと異なるモデルがあります。バリュー・ツマミを操作したときにディスプレイに表示されているものが、実際の名称となります。パラメーターの詳細はp.27～をご覧ください。

9. 再調整する場合は、調整したいモデルのセレクト・スイッチを押した後、バリュー・ツマミを調整します。

HINT バリュー・ツマミを操作したときに、[EXP-CTL-CHAIN]スイッチが点灯した場合、そのパラメーターをエクスプレッション・ペダルに割り当てることができます。このとき、[EXP-CTL-CHAIN]スイッチをホールド（一秒以上押し）すると、エクスプレッション・ペダル (EXP) にパラメーターが割り当てられ（エクスプレッション・ペダルのクイックアサイン機能）演奏中にペダルでパラメーターをコントロールすることが可能です。例えば[PEDAL]モデル・セクターで“U-VIBE”を選択し、バリュー・ツマミ[1]でSPEEDパラメーターを操作すると、[EXP-CTL-CHAIN]スイッチが点灯しますが、上記の操作で、エクスプレッション・ペダルにSPEEDパラメーターを割り当てることができます。詳細はp.42をご覧ください。

NOTE [PEDAL]モデル・セクターで“VOX WAH”を選択した場合は、自動的にMANUALパラメーターがエクスプレッション・ペダル (EXP) に割り当てられ、ワウ・ワウ・ペダルとして使用することができます。

10. 他のプログラムと音量が違う場合など音量の調整する場合は、[AMP]スイッチを押しながら[CAB]スイッチを押して、PROG LVL (バリュー・ツマミ[6]) を調整します。また、エフェクトの設定によってはクリップしてしまう場合もPROG LVLを調節してください。

エフェクトの接続順序を変更する (CHAIN)

モジュレーション・エフェクト、ディレイ・エフェクト、リバーブ・エフェクトの接続の順序を自由に変更することができます。エフェクトの接続順序の設定は、プログラムごとに保存されます。

- [EXP-CTL-CHAIN]スイッチを押し[◀]、[▶]スイッチでバリュー・ツマミ[6]のLEDが点滅する状態にすると、現在の接続順序が表示されます。
- バリュー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチを使って値を変更します。

表示	接続順
MD-DL-RV	モジュレーション→ディレイ→リバーブ
MD-RV-DL	モジュレーション→リバーブ→ディレイ
DL-MD-RV	ディレイ→モジュレーション→リバーブ
DL-RV-MD	ディレイ→リバーブ→モジュレーション
RV-MD-DL	リバーブ→モジュレーション→ディレイ
RV-DL-MD	リバーブ→ディレイ→モジュレーション

3バンド・イコライザーを使用する

“AMP/LINE”を“Ln2”に設定したときだけ、本機のOUTPUT出力の最終的な音色補正を行う3バンド・イコライザーを使用することができます。

“AMP/LINE”で“Ln2”を選択すると、バリュー・ツマミ[2]～[6]の下のLEDが点灯し、以下の動作になります。

バリュー・ツマミ[2]	“TRIM”	-10～10	入力レベル
バリュー・ツマミ[3]	“LO GAIN”	-10～10	低域のブースト量
バリュー・ツマミ[4]	“MID FREQ”	1～5	中域の周波数
バリュー・ツマミ[5]	“MID GAIN”	-10～10	中域のブースト量
バリュー・ツマミ[6]	“HI GAIN”	-10～10	高域のブースト量

NOTE “AMP/LINE”で“AP1”、“AP2”、“AP3”、“Ln1”を選択したときは、このイコライザーは使用できません。

NOTE アンプ・モデルがオフのときは無効になります。

プログラムに名前を付ける (RENAME)

プログラムに名前を付けます。

NOTE プログラム名は、プログラムごとに設定します。保存しないで他のプログラムに切り替えたり、電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

1. [RENAME]スイッチを押します。
2. [◀]、[▶]スイッチを押して変更する文字にカーソルを移動し(選んでいる文字が点滅します)、バリュー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチで文字を変更します。

使用できる文字は下図の通りです。

!"#\$%&'()*+,-./0123456789-./:;?@
ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ[\]^_`

3. 手順2の操作を繰り返して名前を付けます。
4. プログラム名を入力したら[EXIT/TUNE]スイッチを押して元のモードに戻ります。

プログラムを保存する (WRITE)

気に入ったサウンドに仕上がったら保存(ライト)します。

1. [WRITE]スイッチを押します。
ネーム・ディスプレイに"*WRITE*"と表示され、バンク・ディスプレイとプログラムLED[1]~[4]のいずれかが点滅します。
2. バリュー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチで保存先のバンクを選び、[◀]、[▶]スイッチで、保存先のプログラム[1]~[4]を選びます。
例えば9-1(バンク9、プログラム1)に保存する場合は、バリュー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチを操作してバンク・ディスプレイに"9"を表示し、[◀]、[▶]スイッチを押して、プログラム[1]ペダルのLEDを点滅させます。

HINT 保存先となるプログラムの選択には、BANK[UP]、[DOWN]スイッチや、プログラム[1]~[4]セレクトスイッチを使うこともできます。

3. [WRITE]スイッチをもう1度押します。
ネーム・ディスプレイに"COMPLETE"と表示され、これでプログラムが保存され、プログラム・セレクト・モードに戻ります。

NOTE プログラムは上書き保存されます。手順2で選んだナンバーの元のプログラムは消去されます。

NOTE 新しいプログラムを保存しない場合は、[EXIT/TUNE]スイッチを押して、操作をキャンセルしてください。

NOTE 保存しないで他のプログラムに切り替えたり電源を切ると、音作りをした内容は消えてしまいます。

プログラムに保存した値を確認する (オリジナル・バリュー)

プログラムに保存されているパラメーターの値は、バリュー・ディスプレイのオリジナル・バリュー・アイコンで確認できます。

ツマミやスイッチでパラメーターの値を変更しているとき、その値がプログラムに保存されている値(オリジナル・バリュー)と一致すると、[ORIG](オリジナル・バリュー)アイコンが表示されます。

HINT 気に入ったプログラムを見つけ、それがどんな設定になっているか知りたい場合は、このバリュー・ディスプレイを活用するとよいでしょう。

アンプ/エフェクト・タイプの説明

ここではToneLab LEの16種類のアンプ・モデルとペダル・エフェクト、11種類のキャビネット・モデル、モジュレーション、ディレイ、リバーブ・エフェクトについて説明します。

A. AMPモデル

最初に、素晴らしいサウンドを誇る数々のアンプの中からToneLab LEのために特別に選んだ16種類のアンプ・モデルについて説明します。モデルとなるアンプを選択するには、かなりの時間を費やし、スタッフ同士の意見交換、プロ・ミュージシャンやギター専門家のアドバイス、数限りない試聴、試奏を繰り返しました。こうして選んだアンプは皆によく知られた最良なサウンドを生み出すだけでなく、素直なクリーン・サウンドから、とてつもなく歪んだサウンドまで、幅広く網羅します。

コントロール類について

本機のアンプ・モデルには、TREBLE、MIDDLE、BASS、PRESENCE、GAIN、VR GAIN、CH VOLUMEの各コントロールがありますが、モデルとなったアンプには必ずしもこれらのコントロール類がすべて搭載されているわけではありません。そこで、元のアンプにないツマミをそのまま遊ばせておくのもったいないので、アンプ・モデルの再現性を損なわずに、この6つのコントロールに機能を割り当てました。つまり、オリジナルのアンプの音色を正確に再現するだけでなく、更に自在なコントロールができるわけです。

例えば、オリジナルのアンプに3バンドEQの全部が揃っていない場合は、実際のアンプにないコントロールを12時の方向にしたときに「ニュートラル」、つまりオリジナルのサウンドに相当させることができます。それ以外に変えることによって、自在な音色調整が可能になります。

以下はトレブル、ミドル、ベース・コントロールのいずれか（または全部）が揃っていないアンプです。

アンプ	オリジナルのトーン・コントロール
AC15	トップ・カット&ベース・カット・スイッチ
AC15TB	トレブル&ベース
AC30	トップ・カット・コントロールのみ
AC30TB	トレブル、ベース、カット・コントロール
TWEED 1x12	トーン・コントロールのみ

プレゼンス・コントロールについても同様です。元のアンプにプレゼンス・コントロールがない場合は、ToneLab LEのPRESENCEコントロールを左いっぱいに戻すと「ニュートラル」の位置になります。オリジナルのアンプ・サウンドが再現できる位置です。該当するアンプ・モデルには、BLACK 2x12、TWEED 1x12があります。AC15、AC15TB、AC30、AC30TBでは、トップ・カット・コントロールとして動作します。

ゲインとボリュームについて

ToneLab LEのアンプ・モデルには、3つのプログラマブルな音量(ゲイン)をコントロールするツマミ(GAIN、VR GAIN、CH VOLUME)があり、それぞれが固有な働きをします。どのアンプ・モデルも、これらの設定次第でサウンドが驚くほど変化します。

多くのビンテージ・アンプには、ボリューム・コントロールが1つしかありません。最近のアンプには、たいていゲインとマスター・ボリュームの2種類のレベル・コントロールがあります。ゲイン(あるいはプリアンプ・ボリューム)はプリアンプ部の入力レベルを調整し、マスター・ボリュームはプリアンプ部からパワーアンプ部へ送る信号レベルを調整します。上記のようなビンテージ・アンプにはマスター・ボリュームは無く、プリアンプの出力が直接パワーアンプに送られます。

各コントロールは、以下の働きをします。

GAINコントロール: マスター・ボリュームの無いAC15、AC15TB、AC30、AC30TB、UK BLUES、UK 68P、BLACK 2x12、TWEED 1x12、TWEED 4x10のようなビンテージ・タイプのモデルでは、オリジナル・アンプのVOLUMEとして働きます。その他のマスター・ボリューム付きのモダン・アンプでは、GAINまたはPREAMP VOLUMEと同じ働きをします。

VR GAINコントロール: マスター・ボリュームとして、プリアンプ部からパワーアンプ(Valve Reactor)部へ送る信号レベルをコントロールします。

CH VOLUMEコントロール: アンプ出力とスピーカー・キャビネット入力の間のアッテネータ(減衰)として機能します。このコントロールで最終的なレベルと各プログラム間のレベル・バランスを調整します。

HINT ToneLab LEのプリアンプ部とパワーアンプ部の関係は、オリジナル・アンプの動作と同じように設計しています。

ToneLab LEでオリジナル・アンプのサウンドを再現するには、VR GAINコントロールを次のように設定してください。

マスター・ボリューム・コントロールがないビンテージ・タイプのモデルで使用するときは、VR GAINコントロールを最大に上げます。

マスター・ボリューム・コントロール付きのモダン・タイプのモデルで使用するときは、マスター・ボリューム・コントロールを調整するのと同じようにVR GAINを調整してください。VR GAINの設定が低いときは、どちらかというプリアンプ・タイプのディストーションとなり、高い設定にすると、Valve Reactorの歪みと暖かみが増加します。

真空管の話

真空管のことをイギリスでは「バルブ」、アメリカでは「チューブ」と呼びます。このように国によって名称は違いますが、ToneLab LEの16個のアンプ・モデルの心臓にはいずれも、あの真空のガラス管が息づいています。本書では、各アンプの故郷を尊重して、イギリス生まれのアンプは「バルブ」、アメリカ生まれのアンプは「チューブ」と呼んでいます。

Q&A

ECC83プリアンプ・バルブと12AX7プリアンプ・チューブの違いは？

まったく同じです。ECC83はイギリス名、12AX7(別名7025)はアメリカ名です。

パワーアンプの精度

すでに述べたように、優れたチューブアンプのパワー段での処理が、アンプのサウンド、ドライブ感、動作に大きな影響を与えています。パワーアンプの動作(A、AB級)、真空管の種類(EL84、EL34、6L6、6V6)、負帰還回路特性、パワー段のスピーカーとの応答性(ダンピング特性)、これらの要素が音色に重要な役割を果たしています。ToneLab LEはValve Reactor技術を採用することによって、このような要素が忠実に再現できるのです。このフル・チューブアンプと同じ回路構成を持つValve Reactor技術によって、モデルとなったアンプのフル・チューブ・パワー段の独特の様々な回路特性をシミュレートして、チューブアンプに固有の重要な特性を忠実に、そして正確に再現します。たとえばアンプ・モデルのAC30TBを選択すると、ToneLab LEのValve Reactorパワー段はA級、無帰還という設定に切り替わります。

次に各アンプ・モデルについて説明しましょう。

1. AC15

素晴らしいサウンドの1962年製VOX AC15(1x12"、15W)をモデリングしました。

このアンプは「シンプル」の極みで、モデリング対象となったチャンネル2にはボリューム、プリアンプ(実際はベース・カット)とトップ・カットの3つのコントロールしかありません。本機でAC15を選択すると、GAINコントロールがオリジナルのボリューム・コントロールの役目を果たします。また本機PRESENCEコントロールはオリジナルのトップ・カット・ツマミに相当します。AC15のトップ・カット・ツマミ(*1)が高域成分を調整する動作は「普通」のトレブル・コントロールとはかなり異なります。これをうまく使いこなせば、かの有名なVOXアンプの「きらびやか」なサウンドを忠実に再現できます。BASSコントロールは、オリジナル・モデルにある切り替えスイッチに代えて、可変のベース・カット(オリジナルの表記はBrilliance)になっています。TREBLE、MIDDLEコントロールはそれぞれ12時の方向に設定すると「ニュートラル」、つまりオリジナルそのままの音色が得られます。

*1: オリジナルのAC15搭載のトップ・カット・ツマミは、一般的な動作と逆の動きをするので注意してください。オリジナルのモデルでは右に回すほど「カット」されますが、本機では、PRESENCEコントロールを右に回すほど「きらびやか」になり、ゼロに近くなるほど「カット」量が大きくなります。

オリジナル・アンプのバルブ構成: EF86 x 1、ECC83 x 3、ECC82 x 1(プリアンプ内)、EZ81 x 1(整流器)、EL84 x 2(パワーアンプ内)

2. AC15TB

1950年代後半に登場したAC15に対し、AC15TBはAC15の低出力パワー・アンプの甘美で理想的な音色特性

と、AC30のトップ・ブースト・チャンネルの自由度の高い音色を組み合わせたモダンなアンプです。これに更に甘さを加えるため、セレクション製12インチ“BLUE”スピーカー、リバーブ・コントロール、マスター・ボリュームも導入しました。オリジナル・モデルのトーン・コントロールはトレブルとベースだけなので、本機のTREBLEとBASSコントロールでトーンを調整し、MIDDLE(12時の方向でオリジナルの値)とPRESENCE(最大でオリジナルの値)を使って、更に自在な音色の調整ができます。「VOXらしさ」を最大限に出すために、PRESENCEコントロールがオリジナルのAC15のトップ・カット・ツマミと同じ機能を持つように設計しました。ただし、AC15のアンプ・モデルと同様、動作はまったく逆で、ゼロに近づくほどカット量も大きくなります。VOXアンプのトレードマークのサウンド通り、このモデルは響きのいいクリーン・トーンと、スムーズながらも理想的な倍音の波打つオーバードライブ・サウンドを生み出します。オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 5(プリアンプ内)、5Y3GT x 1(整流器)、EL84 x 2(パワーアンプ内)

3. AC30

1959年製、30W、2x12のAC30です。

AC15と同様、AC30のノーマル・チャンネルもツマミがボリュームとトップ・カット(本機ではGAINとPRESENCE(*2)で代用)しかありません。

*2: PRESENCEコントロールはオリジナルのAC30のトップ・カット・ツマミと同じ機能を果たしますが、AC15アンプ・モデルと同様、動作はまったく逆で、ゼロに近づくほどカット量も大きくなります。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4、ECC82 x 1(プリアンプ内)、GZ34 x 1(整流器)、EL84 x 4(パワーアンプ内)

4. AC30TB

AC30TBのプリリアント・チャンネルには、ECC83バルブ(チューブ)とトレブルとベースのトーンコントロールからなる、「トップ・ブースト」回路が増設されており、元から備わっているカットと併せて、トレブル、ベース、カットの3つのトーン・コントロールが搭載されています。本機では、PRESENCEコントロールはオリジナルのカット・ツマミの機能を果たし(ただし、ゼロに近くなるほどカット量が大きくなります)、GAIN、TREBLE、BASSコントロールは、オリジナルのボリューム、トレブル、ベース・コントロールを再現します。MIDDLEコントロールは12時の方向でオリジナル・サウンドとなります。

このアンプ・モデルは、スムーズかつ繊細なトップ・エンド、威厳のある野太いオーバードライブ、オリジナル・アンプをギター・プレーヤーの必須アイテムにしたA級アンプの音色を併せ持つ、豊かで華やかなクリーン・サウンドを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 5、ECC82 x 1(プリアンプ内)、GZ34 x 1(整流器)、EL84 x 4(パワーアンプ内)

5. UK BLUES

非常に珍しいハンド・ワイヤリングによって、60年代初期、古き良きイングランドで作られたヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしました。このアンプはTWEED 4x10の回路を元に設計されましたが、別のタイプの真空管、トランスフォーマーを使用し、クローズ型キャビネットに出カインピーダンスの高い全く別タイプのスピーカーを採用するなど、基本要素でいくつかの変更を加えたため、ユニークな音色になっています。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3 (プリアンプ内)、GZ34 x 1 (整流器)、KT66 x 2 (パワーアンプ内)

6. UK 68P

1968年、UK製50W、プレキシガラスのフロント、4つのインプットを持つヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしました。オリジナル・モデルにはマスター・ボリュームはなく、最善の、あるいは唯一のセットアップ方法はボリュームを目いっぱい上げて音をピリつかせることでした。

オリジナル・モデルと同じレスポンスを得るにはVR GAINコントロールを最大に上げてください。そうすればToneLab LEはオリジナル・アンプと同じように動きます。GAINコントロールを目いっぱい上げると、演奏のダイナミクスのわずかな変化にも優美に応答する最高のオーバードライブが即座に体験できます。また、ギター側のボリュームを下げるとユニークできわめて使いやすいクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3 (プリアンプ内)、EL34 x 2 (パワーアンプ内)

7. UK '80S

1983年、UK製100Wマスター・ボリューム付きフルチューブアンプヘッドのシングル・チャンネルをモデリングしました。アンプの音量をいっぱい上げなくてもクランチ・トーンが生み出せ、GAINコントロールをフルアップすると、うなるような太いサウンドが得られました。

オリジナルのアンプは独特のハードなクランチ・サウンドで有名になりましたが、そのサウンド一辺倒ではなく、本機のモデルもギターのボリュームを絞ると、ロックのコード・ワークに最適な、どんなミックスでも音のよく通るブライトでクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3 (プリアンプ内)、EL34 x 4 (パワーアンプ内)

8. UK '90S

100Wデュアル・チャンネル・ヘッドのリード・チャンネルをモデリングしました。プリアンプでディストーションをかなりかけられます。このアンプはUK '80Sに代わるもので、ゲイン、機能、自由度を要求するロック・ギタリストに就いて開発され、すぐに「業界の標準」になりました。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3 (プリアンプ内)、5881 x 4 (パワーアンプ内)

9. UK MODERN (UK MODRDN)

UK '80SとUK '90Sを融合させた100Wのモダン・アンプのハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。UK '90Sの心地よいトーンのハイ・ゲイン・プリアンプ段、モダン

なサウンドと、UK '80Sのパワー段が持つ、うなるようなパンチの効いたファットでヘヴィーなサウンドを組み合わせています。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4 (プリアンプ内)、EL34 x 4 (パワーアンプ内)

10. US MODERN (US MODRDN)

カリフォルニア産、100W、メタル・プレートに身を包んだハイ・ゲイン・アンプのモダン・ハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。暗くて奥底の知れないローエンド、きらめく高域、怪物のようなゲインは、メタル・アクトに最適です。GAINコントロールを低く設定すると、空間を広げる豊かな高域倍音によって強調された特有の明るくクリーンなサウンドを生みます。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 5 (プリアンプ内)、5U4G x 2 (整流器)、6L6 x 4 (パワーアンプ内)

11. US HIGAIN (US HI-G)

蛇皮でカバーされた1991年製100Wアンプ・ヘッドのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。オープンなローエンドと圧縮した中/高域を組み合わせ、パワフルでヘヴィーなサウンドで、どんな極端なゲイン設定でも芯の通った迫力のあるトーンになります。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 4 (プリアンプ内)、6L6 x 4 (パワーアンプ内)

12. BOUTIQUE OD (BTQ OD)

非常に珍しく非常に高価で評判の高い100Wヘッド、オーバードライブ・スペシャルのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。完全受注生産でハンド・メイドされるこのアンプは、サクスのようなレガート・ソロに最適です。本機の[GAIN]コントロールを上げたときの素晴らしいサステーンはスムーズでソウルフルです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 3 (プリアンプ内)、EL34 x 4 (パワーアンプ内)

13. BOUTIQUE CL (BTQ CL)

これもBOUTIQUE ODと同じメーカーの、完全受注生産でハンド・メイドされる高級アンプのクリーンチャンネルをモデリングしました。丸みのある美しい低域、立ち上がりの早いミッド・レンジのアタック、甘美なトレブル音は、シングル・コイル・ピックアップに最適です。また、ピックアップ・スタイルやピックアップの選択に対する反応も早く、コードを弾いたときのサウンドはしびれるように優雅で華やかです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 3 (プリアンプ内)、6L6 x 4 (パワーアンプ内)

14. BLACK 2x12 (BLK 2X12)

フロント・ブラックフェイスのデュアル・チャンネル、2x12コンボをモデリングしました。深みのあるピアノ風ベース音を含んだタイトなクリーンサウンドです。ボリュームをいっぱい上げると低域が「しゃがれた」サウンドになります。このクラシックなBLACK 2x12オーバードライブを再現するには、本機のGAINとVR GAINをフルアップ、BASSは完全に絞り、MIDDLEはフルアップ、TREBLEは好みの位置に設定してください。オリジナル・アンプのEQコントロールがプリアンプのゲイン・ステージ前に位置しているため、こ

のように中域を上げることで、中域内のディストーションが強調され、その結果、愛すべき、歌うようなブルース・トーンが生まれます。オリジナル・モデルにはプレゼンス・コントロールはなく、ブライツ・スイッチがありました。本機ではPRESENCEコントロールがブライツ・スイッチの役目を果たします。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 2 & 7025 x 2 & 12AT7 (別名ECC81) x 2 (プリアンプ内)、6L6 x 4 (パワーアンプ内)

HINT ペダル・セクションのACOUSTICと組み合わせるとベストです。

15. TWEED 1x12 (TWD 1X12)

ツイード地の18W、1x12のシンプルなチューブ・コンボです。ボリューム・ツマミの他にはトーン・ツマミが一つあるだけで、これでトレブルのカット/ブーストを調整しました。本機のTREBLE、MIDDLE、BASSを使って次の要領でオリジナル・モデルのトーンを再現します。

オリジナル・モデルのトーン・ツマミを絞った状態を再現するときは、BASSコントロールをいっぱい上げ、TREBLEとMIDDLEコントロールを9時の方向に設定します。(PRESENCEコントロールを0に設定)

オリジナル・モデルのトーン・ツマミをいっぱい上げた状態を再現するときは、TREBLEを上げMIDDLEとBASSコントロールを9時の方向に設定します。(PRESENCEコントロールを0に設定)

HINT オリジナル・アンプにはプレゼンス・コントロールがないので、本機のPRESENCEコントロールが0のときにオリジナル・サウンドが再現されますが、好みによってPRESENCEコントロールを上げると、サウンドにきらめきが増えます。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x 1、12AX7 x 1 (プリアンプ内)、5Y3GT x 1 (整流器)、6V6 x 2 (パワーアンプ内)

16. TWEED 4x10 (TWD 4X10)

ツイード地、4x10、のコンボ・アンプをモデリングしました。ピッキングの強弱やギターのパボリュームに敏感に反応します。つまり、アンプをいっぱいドライブしているときにギター・ボリュームを落とすと、クリーンで豊かな音色が出ます。またピッキングの強弱によっては、一つ一つの音やコードのクリーン度/ディストーションの程度を変えたりすることができます。

もう一つの音色特性は、アンプをハードにドライブしたときに整流器GZ34が音に加える、クラシックなチューブアンプの「スポンジ感のある」サウンドです。GAINとVR GAINコントロールをフルアップしハードにピッキングすると、最初のアタックから音がポワーンと弛むのが次第にわかってくるはずです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x 1、12AX7 x 2 (プリアンプ内)、GZ34 x 1 (整流器)、5881s x 2 (パワーアンプ内)

B. CABINET モデル

キャビネット／スピーカーの精度

キャビネット・モデルも、アンプ・モデルに匹敵する精度で、オリジナルのスピーカー・キャビネットを調べ上げ、緻密な、そして忠実な再現を可能にします。ご存知のように、実際の真空管アンプの出力は、それが駆動するスピーカーのさまざまなインピーダンス曲線に深く関係しています。暖かみのあるサウンド、パンチの効いたサウンド、あるいは心地よいサウンドが出せるか出せないかはこのことに大きく依存します。スピーカー・キャビネットの設計というのは、単に周波数特性を考えるだけでなく、トランジエント・レスポンス(音程変化に対するスピーカーの追従性)、アンプ出力に対するスピーカーのインピーダンス曲線などの相互関係を設計することなのです。さらに、キャビネット設計ではエンクロージャー(キャビネット)の実際のサイズ、その材質や厚さ、オープンタイプかセミオープンタイプなのか、クローズドバックなのかなど、十分考慮しなければなりません。これらの要素をToneLab LEはValve Reactor技術による回路とモデリング技術によって解決したのです。

では、ToneLab LEのために特別に選び、モデリングした各キャビネット・モデルについて説明します。

1. TWEED 1x8 (TWD 1X8)

6V6出力管を持つシンプルな構成のアンプに搭載されている、8インチ、3.2Ωのアルニコスピーカーのオープンバックキャビネットです。

2. TWEED 1x12 (TWD 1X12)

Tweed 1x12アンプの音色に大きく影響しているキャビネットです。スピーカーは、アルニコ・マグネットです。

3. TWEED 4x10 (TWD 4X10)

4つの10インチ、8Ωのスピーカーを使用し、パラレル接続で2Ωのインピーダンスになっているオープン・バックのキャビネットです。

4. BLACK 2x10 (BLK 2X10)

セラミック・マグネットの10インチ・スピーカー2発を搭載した35Wオープンバック・コンボのキャビネットです。

5. BLACK 2x12 (BLK 2X12)

12インチのセラミック・マグネット・スピーカーを2発搭載し、パラレル接続でトータル4Ωの負荷になっています。

6. VOX AC15 (AC15)

英国セレクション製、名高い「VOXブルー・アルニコ・スピーカー」を使用した12インチ1発のオープン・バック・コンボのキャビネットです。

7. VOX AC30 (AC30)

偉大なるVOXサウンドは、2発の12インチVOXブルー・アルニコ・スピーカーを16Ω用にシリアル接続したこのスピーカー・キャビネットで完成されています。

8. VOX AD120VTX (AD120)

ネオジウム・マグネットを採用したカスタム・デザインのセレクション製スピーカー2発を搭載したクローズドバックキャビネットVTXです。

9. UK H30 4x12 (UK H30)

下のUK T75 4x12と同じメーカー製、60年代後期の30ワット・スピーカーを搭載したヘビー・デューティなキャビネットです。

10. UK T75 4x12 (UK T75)

よりモダンな、75ワット英国製スピーカーを搭載した4x12キャビネットです。

11. US V30 4x12 (US V30)

“黒い野獣”とも呼ぶべきこのキャビネットは、英国製の“Vintage”と名づけられたスピーカーを使用しており、深い低域と、輪郭のある高域で知られています。

アンプとキャビネットの組み合わせ例

基本的にはアンプ・モデルとキャビネット・モデルを自由に組み合わせることで多様なサウンドを作ることができますが、ここでは、本流ともいえる代表的な組み合わせを紹介します。

アンプ・モデル	組み合わせキャビネット・モデル
TWEED 1x12	TWEED 1x12
TWEED 4x10	TWEED 4x10
BLACK 2x12	BLACK 2x12
AC15	VOX AC15
AC15TB	VOX AC15
AC30	VOX AC30
AC30TB	VOX AC30
UK BLUES	UK H30
UK 68P	UK H30
UK '80S	UK T75
UK '90S	UK T75
UK MODERN	UK T75 or US V30
US HIGAIN	US V30 or UK T75
US MODERN	US V30
BOUTIQUE OD	UK H30を推奨
BOUTIQUE CLN	UK H30を推奨

その他の推奨例

モデルとしてとりあげた、オリジナル・アンプを出しているいくつかのメーカーには、異なるスピーカー構成で、同様なアンプを搭載した製品があります。

ここでは、それらのアンプに近づけるための組み合わせ例を紹介いたします。

アンプ・モデル	キャビネットモデル	同等モデル
BLACK 2x12	BLACK 2x10	Blackface Vibroluxタイプ・コンボ
BLACK 2x12	TWEED 4x10	Blackface Superタイプ・コンボ
TWEED 1x12	BLACK 2x10	Tweed Super
UK BLUES	VOX AC30	初期のBluesBreakerタイプ・コンボ
VOX AC15	VOX AC30	VOX AC15 Supertwin

これらの組み合わせは、定格出力、出カトランス、スピーカー・メーカーとタイプなどがオリジナルの製品のものに違うために、あくまでも近似であるということに注意してください。

ToneLab LEは、アンプとキャビネットの組み合わせやセッティングなどを、各セクターのつまみを回すだけで簡単に切り替えることができ、スピーカーを破損することはありません。

NOTE 使い方によっては破損する場合がありますので十分に注意してください。

簡単に様々な組み合わせができるので、本当に気に入ったサウンドを得るには自分でいろいろな組み合わせを試し、そして判断するしかありません。良い結果も悪い結果もあるでしょうが、アンプとキャビネットの組み合わせに決まりはないので、自由な発想で、気に入ったサウンドを手に入れてください。

NOTE 製品名はすべて該当所有者の商標であり、VOX社との関わりはいっさいありません。なお、製品名及び説明内容は、本機開発中に調査対象となった製品、あるいは合成可能なサウンド・モデルを説明するためにのみ使用しています。

C. PEDAL エフェクト

ペダル・エフェクトはアンプの手前に配置されています。

*: エクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメーターです。

○ PEDAL	DRIVE	LEVEL	TRIM	MANUAL	TYPE	ORDER
○ AMP	GAIN	VR GAIN	TREBLE	MIDDLE	BASS	CH VOLUME
○ CAB-OPTION	CABINET	PRESENCE	NR	PROG LVL		
○ MODULATION	SPEED	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	OPTION	MIX
○ DELAY	TIME	FEEDBACK	TRIM	DUCKING	OPTION	MIX
○ REVERB	TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY		
COMP	SENS	LEVEL	----	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	----	----	----	----
ACOUSTIC	BODY	BASS	TREBLE	----	TYPE	----
	0.0~10.0	1.0~10.0	1.0~10.0	----	1/2/3/4	----
VOX WAH	----	CLOSE	OPEN	MANUAL	TYPE	ORDER
	----	1.0~10.0	1.0~10.0	1.0~10.0	847/848	PrE/PoS
U-VIBE	SPEED	DEPTH	MIX	----	----	----
	1.00~10.00	0.0~10.0	0.0~10.0	----	----	----
BLK/ORG PHASE	SPEED	DEPTH	RESO	MANUAL	TYPE	ORDER
	0.100~10.00	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	bl/Or1/Or2	PrE/PoS
OCTAVE	DIRECT	1OCTAVE	2OCTAVE	----	----	----
	0.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	----	----	----
RING MODULATOR	DIRECT	EFFECT	FILTER	MANUAL	----	----
	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0	----	----
TREBLE BOOST	DRIVE	LEVEL	TRIM	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	----	----	----
TUBE OD	DRIVE	LEVEL	TRIM	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	----	----	----
SUPER OD	DRIVE	LEVEL	TRIM	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	----	----	----
BOUTIQUE	DRIVE	LEVEL	TRIM	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	----	----	----
FAT DIST	DRIVE	LEVEL	TRIM	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	----	----	----
ORANGE DIST	DRIVE	LEVEL	TRIM	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	----	----	----
METAL DIST	DRIVE	LEVEL	TRIM	MIDDLE	BASS	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	----
FUZZ	DRIVE	LEVEL	TREBLE	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	----	----	----
OCTAFUZZ	DRIVE	LEVEL	TRIM	----	----	----
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	----	----	----

1. COMP

粒のそろったスムーズでクリーンなフレーズを弾きたいとき、リードギターにほんのわずかなサスティーンをかけたいときはCOMPが最適です。パーカッシブなクリーンサウンドで人気の高いコンプレッサー・ペダルをモデリングしました。80年代、90年代のポップやファンクのリズムにピッタリです。また、歌うようなメロウなサスティーンも得られます。

[1] “SENS” 1.0...10.0

* 感度を調整します。右に回すほどコンプレッション、サスティーンの量が増加します。

[2] “LEVEL” 0.0...10.0

* 出力レベルを調整します。

2. ACOUSTIC

ギターとアンプのスイッチを入れないアコースティックなサウンドを弾きたいときに最適です。エレキ・ギター音をアコースティック・ギターの音に変換するシミュレーターです。

シングル・コイル(つまり低出力)のネック(フロント)・ピックアップでの使用をお奨めします。

[1] “BODY” 0.0...10.0

* “TYPE” で選択したボディの共振を調整します。

[2] “BASS” 1.0...10.0

* 低域の音色を調整します。

[3] “TREBLE” 1.0...10.0

* 高域の音色を調整します。

[5] “TYPE” 1..4

ボディのタイプを選択します。

1: M-SMALL . 繊細なアルペジオなどに適したオールドの小型ボディ。

2: G-SMALL . カントリー・ブルースマンなどが愛用した中域に特徴のある小型ボディ。

3: T-LARGE . ポップス向けの洗練された音の特徴の大型ボディ。

4: RESO ... スライド奏法に適したレゾネーター・ギターのボディ。

3. VOX WAH

伝説のVOXワウ・ペダルV847、V848 Clyde McCoyモデルの2つを驚沢にモデリングしました。喉からしぼり出すような独特のトーンにより、多くのプロ・ミュージシャンの人気の的となったペダルです。うまく使い分ければ、すすり泣くギター音から、何かに取り憑かれた男の遠吠えまで自在なサウンドが楽しめます。CLOSE、OPENでワウを閉じたとき、開いたときの音色を調整できるので、更に幅の広い音作りができます。

- [2] "CLOSE" 1.0...10.0
ワウを閉じた状態での音色を調整します。
- [3] "OPEN" 1.0...10.0
ワウを開いた状態での音色を調整します。
- [4] "MANUAL" 1.0...10.0
* ワウの開き具合を調整します。
- [5] "TYPE" 847,848
ワウのタイプをV847、V848 CLYDE McCOYモデルから選択します。
- [6] "ORDER" PRE(PRE),PoS(POST)
接続順を選択します。PRE/POSTでAMP MODELの前/後に接続されます。

HINT VOX WAHを選択するとエクスプレッション・ペダルは自動的にMANUALに割り当てられます。

4. U-VIBE

かの有名なペダル付きのフェイズ/ビブラートをモデリングしました。このエフェクトは回転スピーカーをシミュレートし、とても誘惑的で情感のあるトーンを作り出します。このペダルを作り出した人は、実はToneLab LEのパワーアンプに採用したValve Reactor技術を生み出した人でもあるのです。

- [1] "SPEED" 1.00...10.00[Hz]
* ビブラートの速さを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0...10.0
* ビブラートの深さを調整します。
- [3] "MIX" 0.0...10.0
ダイレクトとビブラートのミックス量を調整します。

HINT スピードをエクスプレッション・ペダルに割り当てると、ペダル付きのフェイズ/ビブラート同様にビブラートの速度をコントロールすることができます。

5. BLK / ORG PHASE (B/O PHAS)

デンマーク製の広いレンジを持つ黒いボックスに入った4段フェーザー、バナナ色のボックスに入った人気の高い4段フェイザーと、同じくバナナ色、マイルドな効果をもつ10段フェーザーの3つを驚沢にモデリングして、TYPEで選択できるようにしました。

- [1] "SPEED" 0.100...10.00 [Hz]
* モジュレーションのスピードを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0...10.0
* モジュレーションの深さを調整します。
- [3] "RESO" 0.0...10.0
* レゾナンスの量を調整します。
- [4] "MANUAL" 1.0...10.0
* スイプの中心周波数を調整します。DEPTHが10に設定されているとき、MANUALは動作しません。
- [5] "TYPE" bL,Or1,Or2
フェーザーのタイプを選択します。

bL:デンマーク製、広いレンジを持つ4段フェーザー。
Or1:バナナ色のボックスに入った人気の高い4段フェイザー。
Or2:同じくバナナ色、上品な効果をもつ10段フェーザー。

- [6] "ORDER" PRE(PRE),PoS(POST)
接続順を選択します。PRE/POSTでAMP MODELの前/後に接続されます。

6. OCTAVE

1オクターブ、2オクターブ低い音を作り出し、原音に混ぜ合わせることによって音に重圧間を与えるペダルのモデリングです。

- [1] "DIRECT" 0.0...10.0
* 原音のミックス量を調整します。
- [2] "1OCTAVE" 0.0...10.0
* 1オクターブ低い音のミックス量を調整します。
- [3] "2OCTAVE" 0.0...10.0
* 2オクターブ低い音のミックス量を調整します。

HINT このタイプのペダル・エフェクトはあくまで単音に対してのみ効果的です。コードを弾いてしまうと収拾がつかなくなりやす。

7. RING MODULATOR (RING MOD)

発振器でサイン波を発生させ、ギターのサウンドに掛け合わせると、元々のギター音の周波数に加えてサイン波の周波数だけ高い音と、低い音が発生し、予想もつかない音程になります。これがリング・モジュレータです。エフェクト音の出力にはFILTERを内蔵していて、低い周波数成分だけを取り出すこともできます。これによって、ギターでは発生不可能な低音を生み出すことも可能。MANUALをエクスプレッション・ペダルに割り当てると、非常にユニークな音を演奏中にコントロールすることも可能です。

- [1] "DIRECT" 0.0...10.0
* 原音のミックス量を調整します。
- [2] "EFFECT" 0.0...10.0
* エフェクト音量を調整します。
- [3] "FILTER" 1.0...10.0
* フィルターのカットオフ周波数を調整します。
- [4] "MANUAL" 0.0...10.0
* 発振周波数を調整します。

8. TREBLE BOOST (TREB BST)

VOX AC30を使うことを想定してデザインされたVOX VBM-1内蔵のトレブル・ブースターをモデリングしました。オーバードライブ・サウンドに「クランチ感」を加えます。

9. TUBE OD

ケバケバしい、趣味の悪い緑色のボックスに入ったオーバードライブ・ペダルをモデリングしたもので、その作り出すサウンドの温かみが何とも言えず素晴らしいため、伝統のクラシクなエフェクトとなっています。

10. SUPER OD

黄色の日本製オーバードライブ・ペダルのモデリングです。ブースターとして好んで使用されます。

11. BOUTIQUE

ギリシャ神話に登場する半人半馬の名前を持つオーバードライブをモデリングしました。ゲインを下げるとギターの本音を損なわないブースターとして、ゲインを上げると豊かな

ミッドレンジを持つオーバードライブとして使用できます。トーンは12時が標準ですが、積極的に調整してください。

12. FAT DIST

この世で最も嫌われているネズミを名称に持つペダルをモデリングしました。倍音豊かでスムーズなディストーションが得られます。

13. ORANGE DIST (OR DIST)

日本製、オレンジ色のボックスに入ったクラシックなディストーションです。

- [1] "DRIVE" 1.0...10.0
* 歪み(ブースト)の量を調整します。
- [2] "LEVEL" 0.0...10.0
* 出力レベルを調整します。
- [3] "TONE" 1.0...10.0
* 音色を調整します。

14. METAL DIST (MTL DIST)

メタルに最適なディストーションです。

- [1] "DRIVE" 1.0...10.0
* 歪みの量を調整します。

- [2] "LEVEL" 0.0...10.0
* 出力レベルを調整します。
- [3] "TREBLE" 0.0...10.0
* 高音域の音量を調整します。
- [4] "MIDDLE" 0.0...10.0
* 中音域の音量を調整します。
- [5] "BASS" 0.0...10.0
* 低音域の音量を調整します。

15. FUZZ

レトロっぽく、あつかましくて荒削り、そんなイメージを作ります。

16. OCTAFUZZ

1オクターブ上の音程を付加する伝説のファズをモデリングしました。良い効果を得るには必ずフロントピックアップを使用してください。

- [1] "DRIVE" 1.0...10.0
* 歪み(ブースト)の量を調整します。
- [2] "LEVEL" 0.0...10.0
* 出力レベルを調整します。
- [3] "TONE" 1.0...10.0
* 音色を調整します。

D. MODULATIONエフェクト

キャビネットの後ろに配置されるモジュレーション系のエフェクトを設定します。11種類のモジュレーション・エフェクトから1つを選び設定します。

(*) : エクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメーターです。

	DRIVE	LEVEL	TONE	MANUAL	TYPE	ORDER	
○ PEDAL	AMP	GAIN	VR GAIN	TREBLE	MIDDLE	BASS	CH VOLUME
○ CAB-OPTION	CABINET	PRESENCE	NR	PROG LVL			
→ ○ MODULATION	SPEED	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	OPTION	MIX	
○ DELAY	TIME	FEEDBACK	TONE	DUCKING	OPTION	MIX	
○ REVERB	TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	MIX	
CLASSIC CHORUS	SPEED	DEPTH	----	MANUAL	MODE	----	
	0.100~10.00	0.0~10.0	----	1.0~10.0	1,2,3	----	
MULTI TAP CHORUS	SPEED	DEPTH	----	TIME	----	MIX	
	0.100~10.00	0.0~10.0	----	0.0~10.0	----	0.0~10.0	
CLASSIC FLANGER	SPEED	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	OFFSET	MIX	
	0.100~10.00	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	
BI CHORUS	SPEED1	DEPTH	RESONANCE	SPEED2	MODE	MIX	
	0.100~10.00	0.0~10.0	0.0~10.0	0.100~10.00	S/P1/P2/P3	0.0~10.0	
DUO PHASE	SPEED1	DEPTH	RESONANCE	SPEED2	MODE	----	
	0.100~10.00	0.0~10.0	0.0~10.0	0.100~10.00	S1/S2/P1/P2/P3	----	
TEXTREM	SPEED	DEPTH	----	----	SPREAD	LEVEL	
	1.00~10.00	0.0~10.0	----	----	0.0~10.0	1.0~10.0	
ROTARY	SPEED1	DEPTH	----	SPEED2	ACCEL	----	
	0.80~10.00	0.0~10.0	----	0.80~10.0	1.0~10.0	----	
PITCH SHIFTER	PITCH	FINE	----	TRACKING	DIRECT	EFFECT	
	-24~24	-50~50	----	10~150	0.0~10.0	0.0~10.0	
MOD DELAY	SPEED	DEPTH	FEEDBACK	TIME	MODE	MIX	
	0.100~10.00	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	1,2,3	0.0~10.0	
FILTRON	ATTACK	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	POLARITY	SENS	
	1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	uP/dn	0.0~10.0	
TALK MOD	ATTACK	DEPTH	TYPE	MANUAL	POLARITY	SENS	
	1.0~10.0	0.0~10.0	A-E~O-U	1.0~10.0	uP/dn	0.0~10.0	

1. CLASSIC CHORUS(CL CHORS)

Mono In/Mono Out 1(Mode=1,3) Mono In/Mono Out 3(Mode=2)

コーラスとビブラートの2つのモードを持ち、ギターアンプに内蔵されていることで最も有名なコーラスをモデリングしました。CHORUS/VIBRATOの切り替えはありませんが、SPEEDとDEPTHでどちらのサウンドも作り出すことができ、実物よりも多彩な音色調整が可能。出力のビブラートのモードは、エフェクト音だけを出力するピッチ・ビブラートを可能にします。

- [1] "SPEED" 0.100 ~ 10.00[Hz]
* モジュレーションのスピードを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0 ~ 10.0
* モジュレーションの深さを調整します。
- [4] "MANUAL" 1.0 ~ 10.0
* スイプの中心周波数を調整します。DEPTHが10に設定されているとき、MANUALは動作しません。
- [5] "MODE" 1,2,3
出力仕様を選択します。
1: モノラル出力。
2: エフェクトが右、ドライが左から出力されるステレオモード。
3: エフェクトのみ出力される、ビブラートモード。MANUALを10に設定すると発音の遅れが最小になります。

2. MULTI TAP CHORUS (MT CHORS)

Stereo In/Stereo Out 1

レフト/センター/ライトにそれぞれ独立したコーラス・タップを持ち、深く広がりのあるコーラスです。

- [1] "SPEED" 0.100 ~ 10.00[Hz]
* モジュレーションのスピードを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0 ~ 10.0
* モジュレーションの深さを調整します。
- [4] "TIME" 0.0 ~ 10.0
ディレイタイムを調整します。
- [6] "MIX" 0.0 ~ 10.0
* エフェクト音のミックス量を調整します

3. CLASSIC FLANGER(CL FLANG)

Mono In/Mono Out 1

「両手タッピングのゴッドファーザー」と多くの人々が崇める現代の有名ギタリストを生んだ、真にクラシックなアナログ・フランジャーのモデリングです。

- [1] "SPEED" 0.100 ~ 10.00[Hz]
* モジュレーションのスピードを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0 ~ 10.0
* モジュレーションの深さを調整します。
- [3] "RESO" 0.0 ~ 10.0
* レゾナンスの量を調整します。
- [4] "MANUAL" 1.0 ~ 10.0
* スイプの中心周波数を調整します。DEPTHが10に設定されているとき、MANUALは動作しません。
- [5] "OFFSET" 0.0 ~ 10.0
LFOのスタート位置を設定します。“FLN TRIG”を[CONTROL]ペダルに割り当てると、ペダルを踏む度に、LFOがOFFSETで設定された位置にリセットされます。BYPASSを解除したときにも、ここで設定した位置からLFOがスタートします。(p.43:[CONTROL]ペダルの設定)
- [6] "MIX" 0.0 ~ 10.0
* エフェクト音のミックス量を調整します。

[CONTROL]ペダル FLN TRIG

[CONTOL]ペダルの設定で“FLN TRIG”を選択するとペダルを踏むたびに、LFOがOFFSETで設定された位置にリセットされます。(p.43:[CONTROL]ペダルの設定)

4. BI CHORUS (BI CHORS) Mono In/Mono Out 1 (Mode=S) Stereo In/Stereo Out 1 (Mode=P1,P2,P3)

VOX独自のコーラスです。CHORUS1、CHORUS2の2基のコーラスを内蔵し、シリアル、パラレルに接続を変えられるだけでなく、2つのLFOの同期、非同期も設定できます。素晴らしく広がりのあるサウンドから、複雑なモジュレーションを持つ変態的なフランジャー効果まで幅広い音色を作り出します。

- [1] "SPEED1" 0.100 ~ 10.00[Hz]
* CHORUS1のモジュレーション・スピードを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0 ~ 10.0
* CHORUS1/2のモジュレーションの深さを調整します。
- [3] "RESO" 0.0 ~ 10.0
* CHORUS1/2のレゾナンスの量を調整します。
- [4] "SPEED2" 0.100 ~ 10.00[Hz]
* CHORUS2のモジュレーション・スピードを調整します。

NOTE MODEがP2、P3に設定されているときは効果がありません。

- [5] "MODE" S/P1/P2/P3
CHORUS1/2の接続やLFOを設定します。
S:CHORUS1/2をシリアル接続します。
P1:CHORUS1/2をパラレルで動作させます。
P2:CHORUS1/2をパラレル動作させ、それぞれのLFOを同期させるモードです。
P3:CHORUS1/2をパラレル動作させ、それぞれのLFOを反転同期させるステレオモードです。

NOTE P2、P3に設定時、スピードはSPEED1で操作します。

- [6] "MIX" 0.0 ~ 10.0
* エフェクト音のミックス量を調整します。

5. DUO PHASE(DUO PHAS) Mono In/Mono Out 2 (Mode=S1,S2) Stereo In/Stereo Out 2 (Mode=P1,P2,P3)

PHASER1、PHASER2の2基の6段フェーザーを内蔵した素晴らしいフェーザー。シリアル(擬似12段フェーザー)、パラレルに接続を変えられるだけでなく、2つのLFOの同期、非同期も設定できます。

- [1] "SPEED1" 0.100 ~ 10.00[Hz]
* PHASER1のモジュレーション・スピードを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0 ~ 10.0
* PHASER1/2のモジュレーションの深さを調整します。
- [3] "RESO" 0.0 ~ 10.0
* PHASER1/2のレゾナンスの量を調整します。
- [4] "SPEED2" 0.100 ~ 10.00[Hz]
* PHASER2のモジュレーション・スピードを調整します。

NOTE MODEをS2、P2、P3に設定したときは、効果がありません。

- [5] "MODE" S1,S2,P1,P2,P3
PHASER1/2の接続やLFOを設定します。
S1:PHASER1/2をシリアル接続します。
S2:PHASER1/2をシリアル接続し、それぞれのLFOを同期させる、擬似12段フェーザーモードです。
P1:PHASER1/2をパラレル動作させます。
P2:PHASER1/2をパラレル動作させ、それぞれのLFOを同期させるステレオモードです。

P3:PHASER1/2をパラレル動作させ、それぞれのLFOを反転で同期させるステレオモードです。

NOTE S2、P2、P3に設定時、スピードはSPEED1で操作します。

6. TEXTREM Stereo In/Stereo Out 2

BLACK2x12に搭載されている評判の高いトレモロ回路のモデリングです。SPREADの設定で、左右に広がるパンニング効果も得られます。

- [1] "SPEED" 1.00~10.00[Hz]
*トレモロのスピードを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0~10.0
*トレモロの深さを調整します。
- [5] "SPREAD" 0.0~10.0
左右の広がり感を調整します。
- [6] "LEVEL" 1.0~10.0
*出力レベルを補正します。

7. ROTARY Mono In/Stereo Out 2

ステレオ仕様のロータリー・スピーカーのモデリングです。スピードを調整すると、実際のロータリー・スピーカーのように一定時間後に設定したスピードに到達します。これは、スピーカーの回転を制御するモーターが速度を切り替えるのに数秒かかるのを再現しているからです。

- [1] "SPEED1" 0.80~10.0[Hz]
*スピーカーの回転スピードを調整します。[CONTROL]ペダルに"ROT SPD"を割り当てたときのSLOWスピードとなります。[CONTROL]ペダルを使用しない場合もこのつまみは有効です。(p.43:[CONTROL]ペダルの設定)
 - [2] "DEPTH" 0.0~10.0
*モジュレーションの深さを調整します。
 - [4] "SPEED2" 0.80~10.0[Hz]
*スピーカーの回転スピードを調整します。[CONTROL]ペダルに"ROT SPD"を割り当てたときのFASTスピードとなります。[CONTROL]ペダルを使用しない場合は無効です。(p.43:[CONTROL]ペダルの設定)
 - [5] "ACCEL" 1.0~10.0
*回転スピードの変化にかかる時間を調整します。値を上げるほど、変化に時間がかかります。
- [CONTROL]ペダル ROT SPD
[CONTROL]ペダルの設定で"ROT SPD"を選択すると、ペダルを踏むたびに回転スピードをSLOW/FAST(SPEED1/SPEED2)を切り替えることができ、通常のロータリースピーカーと同様にコントロールすることができます。(p.43:[CONTROL]ペダルの設定)

8. PITCH SHIFTER(PITCH) Mono In/Mono Out 1

高級ラックマウント・タイプのシグナル・プロセッサに匹敵する、上下2オクターブの変化幅を持つピッチシフターです。

HINT PITCHをエクスペリション・ペダルにアサインすると、ペダルでピッチの変化をコントロールすることができます。(p.42:エクスペリション・ペダルによるコントロール)

- [1] "PITCH" -24~24
*ピッチを100セント単位で調整します。
- [2] "FINE" -50~50
*ピッチを1セント単位で調整します。
- [4] "TRACKING" 10~150[ms]
ピッチ・シフターのトラッキング(追従性能)を調整します。PITCH

の設定が0に近いときは短く、±24に近いときは長めに設定するのが効果的です。ピッチシフト音の音色を聞きながら、弾き難くない程度に調整してください。

- [5] "DIRECT" 0.0~10.0
*ダイレクト音のレベルを調整します。
- [6] "EFFECT" 0.0~10.0
*エフェクト音のレベルを調整します。

9. MOD DELAY(MOD DLY) Mono In/Mono Out 1 (Mode=1) Mono In/Mono Out 3 (Mode=2) Mono In/Stereo Out 1 (Mode=3)

ディレイ音にビブラート効果を付加することのできるアナログ・ディレイを再現しました。実物は400msのディレイタイムを持ちますが、暖かい音色はそのままに1400msまで拡張し、DELAYセクションのサブ・ディレイとしても使用可能です。

- [1] "SPEED" 0.100~10.00[Hz]
*モジュレーションのスピードを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0~10.0
*モジュレーションの深さを調整します。
- [3] "FEEDBACK" 0.0~10.0
*フィードバックの量を調整します。
- [4] "TIME" 1.0~10.0
*ディレイ・タイムを設定します。
- [5] "MODE" 1,2,3
出力仕様を選択します。
1:モノラル出力。
2:エフェクトが右、ドライが左から出力されるステレオモード。
3:ドライ+エフェクトが左から、ドライ-エフェクトが右から出力される逆相ステレオモード
- [6] "MIX" 0.0~10.0
*エフェクト音のミックス量を調整します。

10. FILTRON Stereo In/Stereo Out 2

ギターの入力に応じてフィルターの開き具合が変わる。エンベロープ・コントロールド・フィルター(ワウ)です。エクスペリション・ペダルをMANUALに割り当てることで、KORGのTRAVELERペダルの再現も可能です。(このときDEPTHは0に設定してください。)

- [1] "ATTACK" 1.0~10.0
*反応の速さを調整します。
- [2] "DEPTH" 0.0~10.0
*動作の深さを調整します。
- [3] "RESO"
*レゾナンスの量を調整します。
- [4] "MANUAL" 1.0~10.0
*カットオフ周波数を設定します。DEPTHが10に設定されているとき、MANUALは動作しません。
- [5] "POLARITY" uP(UP),dn(DOWN)
動作方向を調整します。
- [6] "SENS" 0.0~10.0
*ギターの音量に対する動作感度を調整します。

11. TALK MOD Mono In/Mono Out 2

ギターの入力に応じて"声"の具合が変わる。エンベロープ・コントロールド・トーンキング・モジュレータです。エクスペリション・ペダルをMANUALに割り当てることで、ペダルで母音のコントロールが可能です。(このときDEPTHは0に設定してください。)

- [1] "ATTACK" 1.0~10.0
*反応の速さを調整します。

- [2] “DEPTH” 0.0～10.0
* 動作の深さを調整します。
- [3] “TYPE” A-E～O-U
変化する母音を次から設定します。
‘A’-‘E’, ‘A’-‘I’, ‘A’-‘O’, ‘A’-‘U’, ‘E’-‘I’, ‘E’-‘O’,
‘E’-‘U’, ‘I’-‘O’, ‘I’-‘U’, ‘O’-‘U’

- [4] “MANUAL” 1.0～10.0
* 声質を調整します。DEPTHを10に設定したときは、MANUALは動作しません。
- [5] “POLARITY” uP(UP),dn(DOWN)
動作方向を調整します。
- [6] “SENS” 0.0～10.0
* ギターの音量に対する動作感度を調整します。

E. DELAYエフェクト

キャビネットの後ろに配置されるディレイ系のエフェクトを設定します。11種類のディレイ・エフェクトから1つを選び設定します。

*: エクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメーターです。

	DRIVE	LEVEL	TRIM	MANUAL	TYPE	ORDER	
○ PEDAL	AMP	GAIN	VR GAIN	TREBLE	MIDDLE	BASS	CH VOLUME
○ CAB-OPTION	CABINET	PRESENCE	NR	MANUAL	OPTION	PROG LVL	
○ MODULATION	SPEED	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	OPTION	MIX	
○ DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
○ REVERB	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
ECHOPLUS	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	26~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	0.0~10.0	0.0~10.0
MULTIHEAD	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	1~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	MODE	0.0~10.0
ANALOG DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	1~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	---	0.0~10.0
MOD DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	3~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	SPEED	0.0~10.0
SWEEP DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	26~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	SENS	0.0~10.0
STEREO DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	1~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	---	0.0~10.0
CROSS DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	1~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	---	0.0~10.0
2TAP DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	1~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	TAP TIME	0.0~10.0
RHYTHM DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	1~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	RHYTHM	1,2,..11
HOLD DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	1~8000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	---	0.0~10.0
REVERSE DELAY	TIME	FEEDBACK	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	MIX	
	26~8000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	---	---	---	0.0~10.0




1. ECHO PLUS Mono In/Mono Out 1

最も評判の高いアナログ・テープ・エコーのモデリングです。もともとエコーは再生ヘッドで作られ、ディレイ・タイムはモーターのスピードを変化させて設定します。プロ・ミュージシャンがこの「原始的な」テープ・エコーを好むのは、温かく暗いエコーを生むからです。

- [1] “TIME” 26～2000[ms]
* ディレイ・タイムを設定します。
- [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
* フィードバックの量を調整します。
- [3] “TONE” 1.0～10.0
* ディレイ音の音色を調整します。
- [5] “LODAMP” 0.0～10.0
* 低域の減衰量を調整します。
- [6] “MIX” 0.0～10.0
* ディレイ音のミックス量を調整します。

2. MULTI HEAD (MULTI HD) ... Mono In/Mono Out 1


3ヘッドのテープ・エコーのモデリングです。各ヘッドから生じるそれぞれのエコーにはフィードバック・ループがあり、複雑で温かい「マルチ・タップ」エコー効果が得られます。

- [1] “TIME” 1～2000[ms]
ディレイ・タイムを設定します。
- [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
* フィードバックの量を調整します。
- [3] “TONE” 1.0～10.0
* ディレイ音の音色を調整します。
- [5] “MODE” 1,2,3,4,5
使用するヘッドの組み合わせを設定します。
1: 通常のエコー。
2:  「タ・タ・タ」というリズムでディレイ音を再生。
3:  「タ・タ・タ」というリズムでディレイ音を再生。
4:  「タ・タ・タ」というリズムでディレイ音を再生。

アンプエフェクト

DELAY

REVERB

- 5:  「タ・タ・タ・タ」というリズムでディレイ音を再生。
 [6] MIX 0.0～10.0
 * ディレイ音のミックス量を調整します。

3. ANALOG DELAY(ANALG DL) Mono In/Mono Out 1

テープエコーに代わり、バケット・ブリッジ・デバイス(BBD)を使用して小型で信頼性のあるディレイ・マシーンとして登場したのがANALOG DELAY。暖かく歪んだ音が特徴です。

- [1] “TIME” 1～2000[ms]
 * ディレイ・タイムを設定します。
 [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
 [3] “TONE” 1.0～10.0
 * ディレイ音の音色を調整します。
 [6] “MIX” 0.0～10.0
 * ディレイ音のミックス量を調整します。

4. MOD DELAY(MOD DLY) Mono In/Mono Out 1

KORGの初期のDIGITAL DELAY SDD-3000をモデリングしています。LFOによるモジュレーションで、TIMEを短かく設定するとコーラスやフランジャーの効果を作ることできます。

- [1] “TIME” 3～2000[ms]
 * ディレイ・タイムを設定します。
 [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
 [3] “TONE” 1.0～10.0
 * ディレイ音の音色を調整します。
 [5] “SPEED” 0.100～10.00[Hz]
 * モジュレーションのスピードを調整します。
 [6] “MIX” 0.0～10.0
 * ディレイ音のミックス量を調整します。

5. SWEEP DELAY(SWEEP DL) . Mono In/Mono Out 1

同じくSDD-3000のモデリング。エンベロープでDELAY TIMEをコントロールすることができ、TIMEを最小にして、FEEDBACKを上げると独特のフランジャー効果が作り出せます。通常のTIME設定でも、LFOでは得られない独特のモジュレーション効果が得られます。

- [1] “TIME” 26～2000[ms]
 * ディレイ・タイムを設定します。
 [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
 [3] “TONE” 1.0～10.0
 * ディレイ音の音色を調整します。
 [5] “SENS” 0.0～10.0
 * ギターの音量に対する動作感度を調整します。
 [6] “MIX” 0.0～10.0
 * ディレイ音のミックス量を調整します。

6. STEREO DELAY(ST DLY) ... Stereo In/Stereo Out 1

KORG製の24bit DIGITAL DELAY DL8000R。サンプリング周波数、DELAY TIMEのワープコントロールを除くとほぼ同一の回路です。完全ステレオ仕様なのでステレオのMOD、REVERB出力の後に配置して使用すると更に効果的です。

- [1] “TIME” 1～4000[ms]
 ディレイ・タイムを設定します。

- [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
 [3] “TONE” 1.0～10.0
 * ディレイ音の音色を調整します。
 [4] “DUCKING” 0.0～10.0
 * ギターの音量に対するダッキングの感度を調整します。
 [6] “MIX” 0.0～10.0
 * ディレイ音のミックス量を調整します。

HINT 「ダッキング」とは、ギターを強く弾いたときにディレイ音の音量を自動的に下げてフレーズを際立たせる効果です。

7. CROSS DELAY(CROSS DL) Stereo In/Stereo Out 3

L→R、R→Lにクロスフィードバックする設定のDL8000Rです。

- [1] “TIME” 1～4000[ms]
 ディレイ・タイムを設定します。
 [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
 [3] “TONE” 1.0～10.0
 * ディレイ音の音色を調整します。
 [4] “DUCKING” 0.0～10.0
 * ギターの音量に対するダッキングの感度を調整します。
 [6] “MIX” 0.0～10.0
 * ディレイ音のミックス量を調整します。

8. 2TAP DELAY(2TAP DLY) Mono In/Stereo Out 1

DELAY TIMEをずらした2タップのDELAYをL/Rに振り分けて、モノラルの入力をステレオ化する設定のDL8000Rです。

- [1] “TIME” 1～4000[ms]
 ディレイ・タイムを設定します。
 [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
 [3] “TONE” 1.0～10.0
 * ディレイ音の音色を調整します。
 [4] “DUCKING” 0.0～10.0
 * ギターの音量に対するダッキングの感度を調整します。
 [5] “TAP TIME” 0.0～10.0
 L側のディレイ・タイムに対するR側のディレイ・タイムの割合を設定します。
 [6] “MIX” 0.0～10.0
 * ディレイ音のミックス量を調整します。

9. RHYTHM DELAY(RHYTHM DL) . Mono In/Mono Out 1

2タップのDELAYをRHYTHMで設定した音符分のTIMEに自動設定するDL8000Rの機能を持ちます。

- [1] “TIME” 1～4000[ms]
 ディレイ・タイムを設定します。
 [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
 [3] “TONE” 1.0～10.0
 * ディレイ音の音色を調整します。
 [4] “DUCKING” 0.0～10.0
 * ギターの音量に対するダッキングの感度を調整します。
 [5] “RHYTHM” 1,2,...11
 ディレイタイムを四分音符としたときの、2タップのリズム・ディレイを設定します。設定によっては1タップになります。
 [6] “MIX” 0.0～10.0
 * ディレイ音のミックス量を調整します。

10. HOLD DELAY(HOLD DLY) ... Mono In/Mono Out 1

HOLD DLYを選択すると、CONTROLペダルに“HOLD DLY”が自動的に割り当てられ、ペダルを踏むとDELAY音をホールドすることができます。

- [1] “TIME” 1～8000[ms]
 デレイ・タイムを設定します。
- [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
- [3] “TONE” 1.0～10.0
 * デレイ音の音色を調整します。
- [6] “MIX” 0.0～10.0
 * デレイ音のミックス量を調整します。
- [CONTROL]ペダル HOLD DLY
 ペダルをONにした時点でデレイ音がホールドされます。

11. REVERSE DELAY(REVRS DL) .. Mono In/Mono Out 1

デレイ音が逆再生されるDIGITAL DELAYです。音符を長く伸ばしたレガート奏法で、非常に気持ちの良い(!?)効果を得ることができます。

- [1] “TIME” 26～8000[ms]
 デレイ・タイムを設定します。
- [2] “FEEDBACK” 0.0～10.0
 * フィードバックの量を調整します。
- [3] “TONE” 1.0～10.0
 * デレイ音の音色を調整します。
- [6] “MIX” 0.0～10.0
 デレイ音とダイレクト音のミックス・バランスを調整します。10に設定するとデレイ音のみになります。

F. REVERBエフェクト

キャビネットの後ろに配置されるリバーブ系のエフェクトを設定します。11種類のリバーブ・エフェクトから選び設定します。

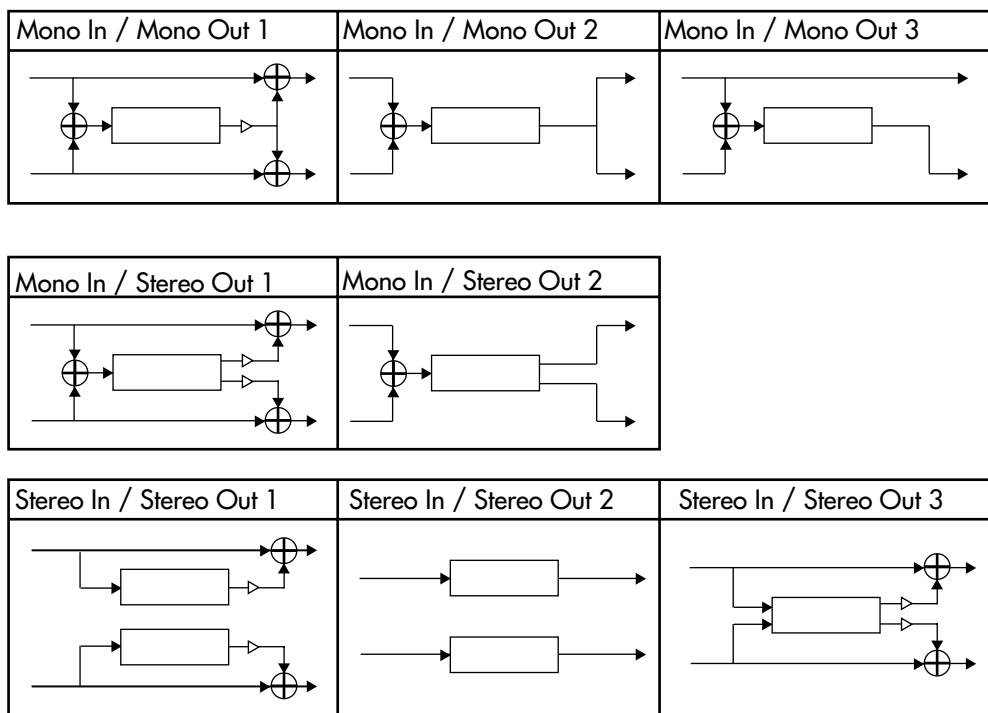
(*)： エクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメーターです。

	○ PEDAL	DRIVE	LEVEL	TOPE	MANUAL	TYPE	ORDER
	● AMP	● GAIN	● VR GAIN	● TREBLE	● MIDDLE	● BASS	● CH VOLUME
	○ CAB-OPTION	CABINET	PRESENCE	NR	PROG LVL		
	○ MODULATION	SPEED	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	OPTION	MIX
	○ DELAY	TIME	FEEDBACK	TOPE	DUCKING	OPTION	MIX
➡	● REVERB	TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY		MIX
SLAP		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
SPRING		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
BOUNCE		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
PLATE		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
GARAGE		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
CHAMBER		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
CANYON		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
ROOM		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
STUDIO		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
HALL		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0
ARENA		TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	----	MIX
		1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~70[ms]	----	0.0~10.0

- 1. SLAP** Mono In/Stereo Out 1
残響の短い、非常に小さな空間のリバーブ・モデルです。
- 2. SPRING** Mono In/Stereo Out 1
ギター・アンプに搭載されている、サーフ・ミュージックに最適な、スプリング・リバーブのモデルです。
- 3. BOUNCE** Mono In/Stereo Out 1
より密度の濃い残響をもつスプリング・リバーブです。
- 4. PLATE** Mono In/Stereo Out 1
こちらはスプリングの代わりに鉄板を振動させるタイプのリバーブ・ユニットのモデルで、短めの残響に調整しています。立ち上がりの早い残響はパーカッシブなプレイに適します。
- 5. GARAGE** Mono In/Stereo Out 1
密度の濃い残響を持つガレージ風のリバーブ・モデルです。
- 6. CHAMBER** Mono In/Stereo Out 1
かつてレコーディング・スタジオでは、残響を得るために特別に設計した部屋（エコー・チャンバー）にスピーカーとマイクを設置して残響を録音していました。このモデルでは落ち着いたサウンドのエコー・チャンバーを再現しています。
- 7. CANYON** Mono In/Stereo Out 1
渓谷のような響きを持つリバーブ・モデルです。

- 8. ROOM** Mono In/Stereo Out 1
初期反射音を多く含む、一般的な部屋のリバーブ・モデルです。
- 9. STUDIO** Mono In/Stereo Out 1
大きな部屋の残響をモデリングしています。
- 10. HALL** Mono In/Stereo Out 1
エコー成分を多く含むコンサート・ホールの残響をモデリングしています。
- 11. ARENA** Mono In/Stereo Out 1
スムーズで密度の濃い残響を持つアリーナ風のリバーブ・モデルです。
- [1] “TIME” 1.0～10.0
* リバーブの持続時間を設定します。持続時間はリバーブのタイプによって異なります。
- [2] “LO DAMP” 0.0～10.0
* 低域の減衰量を調整します。
- [3] “HI DAMP” 0.0～10.0
* 高域の減衰量を調整します。
- [4] “PRE DLY” 0～70[ms]
残響が始まるまでの初期ディレイを設定します。設定次第で、原音の輪郭を浮き上がらせることができます。
- [6] “MIX” 0.0～10.0
* リバーブ音のミックス量を調整します。

BLOCK DIAGRAM



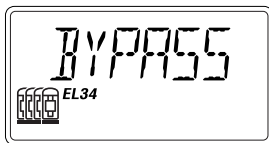
チューナー (バイパス、ミュート)

本機はオート・クロマチック・チューナーを内蔵しています。このチューナーは基準ピッチAの周波数をA438Hz～A445Hzの範囲で調整 (キャリブレーション) できます。

チューニングの方法

HINT ネーム・ディスプレイにプログラム名を表示しているときは、[EXIT/TUNE]スイッチを押すだけで、チューナーが起動します。

1. プログラム・セレクト・モードであることを確認してください。プログラム・セレクト・モードでは、BANK [UP]、[DOWN]ペダルのLEDが消灯しています。BANK [UP]ペダルのLEDが緑に点灯しているときは、エフェクト ON/OFF モードが選ばれています。BANK [UP]ペダルを押して、プログラム・セレクト・モードにしてください。
2. 現在選択している (赤のLEDが点灯している) プログラムのペダルを0.5秒間ほど長押しします。すべてのエフェクトが無効となるバイパスの状態になり、オート・クロマチック・チューナーが起動します。



ライブ中など音を出さずにチューニングする場合は、現在選択しているプログラムのペダルを1.5秒間ほど長押しすると、サイレント・チューニング・モードになり、出力がミュートした状態でチューニングができます。

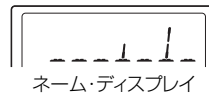


3. 接続したギターを弾くと、一番近い音名がバンク・ディスプレイに、メーターがネーム・ディスプレイに表示されます。音名は次のように表示されます。

C	C#	D	D#	E	F
C	C'	d	d'	E	F
F#	G	G#	A	A#	B
F'	G	G'	A	A'	b

4. メーターを見ながらギターを微調整します。

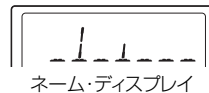
高い方にずれているとき



チューニングがあっているとき



低い方にずれているとき



5. チューニングが終わったら、いずれかのプログラム・セレクト・ペダルをもう1度押して、プログラム・セレクト・モードに戻ります。

HINT チューナーを起動したときと異なるプログラム・セレクト・ペダルを押してチューナーを解除した場合は、同時にプログラムも変更されます。

チューナーのキャリブレーション調整

本機の電源を入れると、内蔵チューナーは基準ピッチAの周波数が440Hz (コンサート・ピッチ) になります。この基準ピッチを変更すること (キャリブレーション) ができます。438Hz～445Hzの範囲で調整できます。

1. チューナー起動中は、バリュー・ディスプレイに基準ピッチの周波数が表示されています。
2. [▲]、[▼]スイッチを押して、438Hz～445Hzの範囲でこの基準ピッチを変更すること (キャリブレーション) ができます。

NOTE 変更したキャリブレーションは電源を切ると無効となり、再び電源をオンにすると自動的に440Hzになります。

エクスプレッション・ペダルによるコントロール

エクスプレッション・ペダルの設定

ToneLab LEは、ワウやボリューム以外にも、さまざまなエフェクトのパラメーターをコントロールすることが可能なエクスプレッション・ペダルを搭載しています。どのエフェクトをどのようにコントロールするかをプログラム毎に設定できます。

HINT エクスプレッション・ペダルにパラメーターをアサインして操作することは、ツマミの代わりにペダルでエディットすることと同様です。WRITEを行うと、そのときのペダル位置の音色で書き込まれることになります。ただし、エクスプレッション・ターゲットが“-OFF-”、“VOLUME”、“M/PITCH”、“D/INPUT”、“R/INPUT”の場合は、エフェクト・プログラムのパラメーターを、エディットすることにはなりません。

エクスプレッション・ターゲット・パラメーターのクイックアサイン

エクスプレッション・ターゲット・パラメーターの設定を非常に簡単に行うことができる便利な方法を紹介します。アサインの例として[MODULATION]セクターで“PITCH SHIFTER”を選びます。ここでは効果を判りやすくするために PITCH SHIFTERの初期化を行います。すでに“PITCH SHIFTER”が選ばれている場合は、一度セクターで別のエフェクトを選択した後、再度“PITCH SHIFTER”を選びなおしてください。

1. PITCH SHIFTERのエディット中にバリュー・ツマミ [1]または[◀]、[▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに“PITCH”と表示させると、[EXP-CTL-CHAIN]スイッチが点灯します。この状態で、[EXP-CTL-CHAIN]スイッチをホールド(1秒間押す)すると、ネーム・ディスプレイに[COMPLETE]と表示されます。すると、エクスプレッション・ペダルにPITCHパラメーターがアサインされ、PITCH SHIFTの量をコントロールすることができます。さらに、詳細な設定を行いたいときには[EXP-CTL-CHAIN]スイッチを押して、ターゲット・レンジ(PITCH SHIFT量)の最小値(“EXP MIN”バリュー・ツマミ[2])、最大値(“EXP MAX”バリュー・ツマミ[3])を調整します。

NOTE エクスプレッション・ターゲットに設定されているパラメーターのエフェクト・タイプを変更すると、ターゲットが初期化され“-OFF-”になります。(ただし、“A/*****”、“D/INPUT”、“R/INPUT”のときを除く)

HINT PEDALエフェクトのタイプを“VOX WAH”に設定したとき、エクスプレッション・ペダルに自動的に“P/MANUAL”(ワウの開き具合)が設定されます。このとき他の操作をせずにPEDALエフェクトを他のタイプに戻すと、ターゲット、MIN、MAXの設定も自動的に元に戻ります。(ただし、“P/*****”のときは、元に戻らず“-OFF-”になり初期化されます。)

NOTE エクスプレッション・ターゲット・パラメーターを変更するとMIN、MAXの値が初期化されます。

エクスプレッション・ターゲット・パラメーターの設定

[EXP-CTL-CHAIN]スイッチを押して点滅させると、バリュー・ツマミ[1]~[3]で以下の項目を設定できます。

- [1] “*/#####” エクスプレッション・ターゲット・パラメーター(バリュー・ディスプレイ:EP表示)
- [2] “EXP MIN” エクスプレッション・ペダル・パラメーター・レンジ(最小値)
- [3] “EXP MAX” エクスプレッション・ペダル・パラメーター・レンジ(最大値)

NOTE 上記の項目はプログラムごとに設定します。保存しないで他のプログラムに切り替えたり、電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

クイックアサイン同様、エクスプレッション・ペダルにモジュレーション・エフェクトの PITCH SHIFTERの PITCHをコントロールするように設定する方法を説明しましょう。

1. [MODULATION]セクターで“PITCH SHIFTER”を選びます。既に“PITCH SHIFTER”が選ばれている場合は、一度セクターで別のエフェクトを選択したのち、あらためて“PITCH SHIFTER”を選びなおしてください。

NOTE エクスプレッション・ターゲットに設定しているパラメーターのエフェクト・タイプを変更すると、ターゲットが“-OFF-”になり初期化されます。(ただし、“A/*****”、“D/INPUT”、“R/INPUT”のときを除く)

HINT PEDALエフェクトのタイプを“VOX WAH”に設定したとき、エクスプレッション・ペダルに自動的に“P/MANUAL”(ワウの開き具合)が設定されます。このとき他の操作をせずにPEDALエフェクトを他のタイプに戻すと、ターゲットの設定も自動的に元に戻ります。

2. [EXP-CTL-CHAIN]スイッチを押して点滅させます。
3. [◀]、[▶]スイッチまたはバリュー・ツマミ[1]を回して、バリュー・ディスプレイに“EP”を表示します。
4. [▲]、[▼]スイッチまたはバリュー・ツマミ[1]を回して、ネーム・ディスプレイに“M/PITCH”を表示します。これで、エクスプレッション・ペダルにPITCH SHIFTERのPITCHパラメーターのコントロールが設定されます。

NOTE PITCHは他のパラメーターとは異なり、エクスプレッション・ペダルでコントロールしたときに、音色は変化しますがパラメーターはエディットされません。これはMIN、MAXを近い値に設定(ペダルによるピッチの変化量を少なく設定)したときでもピッチを滑らかに変化させるためです。

NOTE ターゲットのエフェクトが“OFF”の場合には何もコントロールされません。

エクスプレッション・ペダル・ターゲット・パラメーターは、下記のように表示されます。

“*/#####” * :ターゲット・カテゴリー、##### :ターゲット・パラメーター

<例>

```

“--OFF--” --- OFF (何もコントロールしない)
“VOLUME” --- ボリューム・ペダル
“P/DIRECT” --- (* : P (ペダル))
                ペダル・エフェクト (OCTAVE などの
                DIRECT (原音のミックス量))
“M/SPEED” --- (* : M (モジュレーション))
                モジュレーション・エフェクトの SPEED
“D/INPUT” --- (* : D (ディレイ))
                ディレイ・エフェクトの入力レベル
“R/MIX ” --- (* : R (リバーブ))
                リバーブ・エフェクトの MIX (リバーブ音
                のミックス量)
    
```

ここに挙げた以外にも、各エフェクト・モデルごとに決められた数多くのエクスプレッション・ターゲットを、エクスプレッション・ペダルに自由にアサインすることができます。必要があれば、さらに詳細な設定を行うことができます。

NOTE “--OFF--”、“VOLUME”、“M/PITCH”、“D/INPUT”、“R/INPUT”ではエクスプレッション・ペダルをコントロールしたときに、音色は変化しますがパラメーターはエディットされません。

5. バリュー・ツマミ[2]を回して、ネーム・ディスプレイに“EXP MIN”を表示します。ここでは、ペダルをMIN位置にしたときのPITCHの値を設定します。バリュー・ツマミ[2]または[▲]、[▼]スイッチで設定してください。

6. バリュー・ツマミ[3]を回して、ネーム・ディスプレイに“EXP MAX”を表示します。ここでは、ペダルをMAX位置にしたときのPITCHの値を設定します。バリュー・ツマミ[3]または[▲]、[▼]スイッチで設定してください。

エクスプレッション・ペダルを操作したとき、ターゲット・パラメーターはここで設定した範囲で変化します。

NOTE エクスプレッション・ターゲットを変更するとMIN、MAXの値が初期化されます。

7. [EXIT/TUNE]スイッチを押して、元のモードに戻ります。

NOTE 保存しないと、本機のプログラム・メモリに書き込まれません。

エクスプレッション・ペダルによるコントロールの初期化設定 (EXP INIT)

1. [GLOBAL]スイッチを押して、“EXP INIT”設定画面が表示します。
エクスプレッション・ペダルによるコントロール情報(ペダルの位置)を、プログラムを切り替え後も引き継ぐかどうかを設定します。

2. [▲]、[▼]スイッチまたはバリューツマミ[6]を回して設定を変更します。

“OFF”に設定した場合、プログラムを切り替えると同時に、エクスプレッション・ターゲットに設定しているパラメーターが現在のペダルの位置に応じて変化します。

“ON”に設定した場合、プログラムを切り替えた直後はプログラム保存時と同じ音色になります。

3. [EXIT/TUNE]スイッチを押すとエディットが解除され、元のモードに戻ります。

NOTE “EXP INIT”の設定はプログラムごとには保存できません。全プログラムに共通の設定となり、その設定は自動的に記憶されます。

NOTE エクスプレッション・ターゲットが“VOLUME”、“D/INPUT”、“R/INPUT”の場合は、“EXP INIT”の設定に関らず、常にペダルの位置に応じて音色が変化します。

[CONTROL]ペダルの設定

エフェクト・プログラム毎に、[CONTROL]ペダルでコントロールする機能を設定します。

[EXP-CTL-CHAIN]スイッチを押して点滅させ、バリュー・ツマミ[4]で、コントロール機能を設定します。

各エフェクトのON/OFF

- “I/ONOFF” 外部エフェクトインサートのON/OFF
- “P/ONOFF” ペダル・エフェクトのON/OFF
- “A/ONOFF” アンプ・モデルのON/OFF
- “AC/ONOFF” アンプ・モデルのON/OFFにキャビネット・モデルのON/OFFを同期させる
- “C/ONOFF” キャビネット・モデルのON/OFF
- “M/ONOFF” モジュレーション・エフェクトのON/OFF
- “D/ONOFF” ディレイ・エフェクトのON/OFF
- “R/ONOFF” リバーブ・エフェクトのON/OFF

NOTE [CONTROL]ペダルLEDにON/OFFの状態が表示されます。

TAP TEMPOによるパラメーターの設定

- “MOD TAP” モジュレーション・エフェクトのSPEEDパラメーターのTAP TEMPOによる設定
- “DLY TAP” ディレイ・エフェクトのTIMEパラメーターのTAP TEMPOによる設定

NOTE [CONTROL]ペダルLEDが設定したテンポで点滅します。

エフェクトのコントロール

- “FLN TRIG” CLASSIC FLANGERのLFO START TRIGGER
- “ROT SPD” ROTARYのSPEED SW
- “HOLD DLY” HOLD DELAYのHOLD

NOTE 対象となるエフェクトが選ばれていない場合には、何もコントロールされません。

1. [EXP-CTL-CHAIN]スイッチを押して点滅させます。

2. [▶]スイッチを4回押してコントロール・ターゲットを表示します。

3. [▲]、[▼]スイッチまたはバリュー・ツマミ[4]を回して、コントロール・ターゲットを選びます。
4. MOD TAP、DLY TAPを選択した場合は、[▶]スイッチまたはバリュー・ツマミ[5]を回して、ネーム・ディスプレイに“FACTOR”を表示します。ここでは、TAPした間隔に対するSPEED、TIMEの比を設定します。例えば、ターゲットをDLY TAP、FACTORを“1-4”に設定した場合、TAPした間隔の1/4の長さでデレイ・タイムが設定されます。
5. [EXIT/TUNE]スイッチを押して元のモードに戻ります。

FACTOR (バリュー・ツマミ[5]) の設定

MODULATIONエフェクトのSPEEDパラメーターや、DELAYエフェクトのTIMEパラメーターを[CONTROL]ペダルに割り当てたときは、[CONTROL]ペダルを2回踏む時間間隔でMODULATIONエフェクトのLFO SPEEDやDELAYエフェクトのDELAY TIMEが設定できます。このとき、FACTORパラメーター (バリュー・ツマミ[5]) の設定にしたがって、実際にペダルを踏んで設定した間隔の1/6、1/4、1/3、1/2、2/3、3/4、1、4/3、3/2、2、3、4倍の長さで各パラメーターが設定されます。

NOTE TAPの間隔は最大で10秒です。

NOTE MOD TAPまたはDLY TAP以外を割り当てた場合には、FACTORは無効になります。

NOTE [CONTROL]ペダルの設定を変更すると、FACTORは“1”に初期化されます。

ペダルの感度の調整

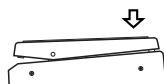
ToneLab LEのエクスペッション・ペダルのMin/Maxの設定が、それぞれ最小/最大であるにも関わらず、踏み込んだときにエフェクト効果や音量が最大にならない場合、また戻したときにエフェクト効果や音量が最小にならない場合は、次のように本機を操作してエクスペッション・ペダルが最適に動作するように感度を調整してください。

NOTE 感度を調整するときは、エクスペッション・ペダルを必ず手で操作してください。足で操作すると、正確に調整できないことがあります。

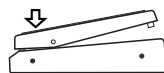
エクスペッション・ペダルの調整

1. 電源を切ります。
2. [EXP-CTL-CHAIN]スイッチと[▲]スイッチを押しながら、電源を入れます。
ネーム・ディスプレイには“EXP MAX”と表示されません。

3. エクスペッション・ペダルをゆっくりと押さえ、止まったらペダルから手を離します。



4. [GLOBAL]スイッチを押します。ネーム・ディスプレイに“EXP MIN”と表示されます。
5. エクスペッション・ペダルを手前にゆっくりと戻し、止まったらペダルから手を離します。



NOTE 調整をキャンセルするときは、[EXIT/TUNE]スイッチを押します。

6. 再度[GLOBAL]スイッチを押します。
ネーム・ディスプレイに1秒間“COMPLETE”と表示され、その後通常の動作に移ります。
感度が調整できなかったときは、ネーム・ディスプレイに“ERROR”と表示されたあと“EXP MAX”と続けて表示されます。このときは、手順3から操作を行ってください。

NOTE 繰り返し操作しても感度が調整できないときは、本機が故障しているおそれがあります。そのときは、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

MIDIによるコントロール

MIDIはMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。MIDI機器同士をMIDIケーブルで接続することで、異なるメーカーの電子楽器やコンピュータと演奏情報のやりとりが行えます。

本機は、MIDIを使って外部MIDI機器を接続することで、次のことができます。

- 本機を操作して、外部MIDI機器のプログラムを切り替える。外部MIDI機器から本機のプログラムを切り替える。→「プログラム・チェンジ」
- ペダルを操作して、外部MIDI機器をコントロールする。
外部MIDI機器から本機の音量、エフェクトなどをコントロールする。→「コントロール・チェンジ」
- サウンド・エディタなどを使用してパラメーターをエディットする。→「パラメーター・チェンジ」
- 本機のプログラム・データをバックアップ(保存)/リストア(読み込み)する。→「プログラム・データのバックアップ(保存)/リストア(読み込み)」

NOTE 上記のコントロールを行うには本機と外部MIDI機器をMIDIケーブルで接続し、MIDIチャンネルを合わせる必要があります。→「MIDI機器/コンピュータとの接続」「MIDIチャンネルを設定する」

NOTE ここでの各設定を変更すると、その値は自動的に記録されます。設定が済んだら、[EXIT/TUNE]スイッチを押して元いたモードに戻ってください。

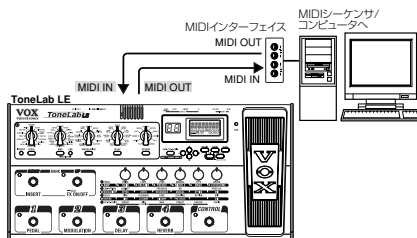
NOTE 外部MIDI機器が各MIDI情報を認識しない場合は、それぞれのコントロールは行えません。本機と各機器の「MIDIインプリメンテーション・チャート」を確認してください。

MIDI機器/コンピュータとの接続

本機から外部MIDI機器をコントロールする場合は、本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIシーケンサなどの外部MIDI機器から本機をコントロールする場合は、本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIシーケンサやサウンド・エディタなどと接続する場合



は、通常、相互にデータをやりとりしますので、本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子、本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をそれぞれMIDIケーブルで接続します。

NOTE コンピュータとToneLab LEを接続する場合は、MIDIインターフェイスが必要になります。なお、USB-MIDIインターフェイスを使用する場合、機器によってはToneLab LEのMIDIエクスクルーシブ・メッセージを送受信できない場合があります。

MIDIメッセージの設定

MIDIチャンネルを設定する (MIDI CH)

外部MIDI機器とデータをやりとりするときは、本機のMIDIチャンネルと外部MIDI機器のMIDIチャンネルを合わせます。以下の手順でMIDIチャンネルを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. ネーム・ディスプレイに「MIDI CH」を表示します。他のパラメーターが選ばれているときは、[◀]、[▶]スイッチを押して表示してください。
3. バリユー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチで本機のMIDIチャンネルを設定します。
4. 接続した外部MIDI機器のMIDIチャンネルを設定します。
外部MIDI機器のMIDIチャンネル設定は、接続する機器の取扱説明書を参照してください。

プログラム・チェンジ (PCHG OUT)

本機でプログラムを切り替えると、MIDI OUT端子からプログラム・チェンジ・メッセージが送信され、外部MIDI機器のプログラムが切り替わります。また、本機がプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、本機のプログラムが自動的に切り替わります。

ここでは、本機でプログラムを切り替えたときに、MIDI OUT端子からプログラム・チェンジ・メッセージを送信するか、しないかを設定します。

NOTE 本機で扱えないプログラム・チェンジ・ナンバーは無視されます。本機で扱える範囲については「MIDIインプリメンテーション・チャート」を参照してください。

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. [◀]、[▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに「PCHG OUT」を表示します。
3. プログラム・チェンジ・メッセージを送信するかしないかを設定します。バリユー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチで設定します。
「OFF」: プログラム・チェンジ・メッセージを送信しません。
「On」: プログラム・チェンジ・メッセージを送信します。

コントロール・チェンジ (CCHG I/O)

本機のエクスペッション・ペダル、[CONTROL]ペダルなどの各コントローラを操作するとコントロール・チェンジ・メッセージを送信します。外部MIDI機器のコントロール・チェンジ・ナンバーに対応する機能をリアルタイムでコントロールすることができます。

また外部MIDI機器からコントロール・チェンジ・メッセージを受信すると、本機で操作するのと同じように本機がコントロールされます。

外部MIDI機器からコントロールできる機能については手順4を参照してください。

本機がコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するか、しないかを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. [◀]、[▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに“CCHG I/O”を表示します。
3. すべてのコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するかしないかを設定します。バリュー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチで選びます。
“OFF”：コントロール・チェンジ・メッセージを送信しません。
“On”：コントロール・チェンジ・メッセージを送信します。

NOTE ここでの設定が“OFF”のときは、手順4で個別にコントロール・ナンバーを設定してもすべてのコントロール・チェンジ・メッセージを送受信しません。

4. [◀]、[▶]スイッチを同時に押して、コントロール・ナンバーを個別に設定する画面に切り替えます。各コントローラを[◀]、[▶]スイッチを押して選びます。次の順番で切り替わります。

“EXP PDL”： EXPRESSIONペダル・コントロール
“CTRL PDL”： CONTROLペダル・オン/オフ
“PEDAL FX”： PEDALエフェクト・オン/オフ
“MOD FX”： MODULATIONエフェクト・オン/オフ
“DELAY FX”： DELAYエフェクト・オン/オフ
“REVRB FX”： REVERBエフェクト・オン/オフ
“INSRT FX”： 外部エフェクト・オン/オフ
“AMP CTRL”： AMPモデル・オン/オフ (受信のみ)
“CAB CTRL”： CABINETモデル・オン/オフ (受信のみ)

5. 各コントローラごとにコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するかしないかを設定します。送受信する場合はコントロール・チェンジ・ナンバーを設定します。設定するコントローラを選び、バリュー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチを使って設定します。
“OFF”：コントロール・チェンジ・メッセージを送受信しません。
“CC00”～“CC95”：コントローラを操作すると、設定したコントロール・チェンジ・ナンバー0～95でメッセージを送信します。また外部MIDI機器から設定したコントロール・チェンジ・ナンバーでメッセージを受信すると本機がコントロールされます。

6. [◀]、[▶]スイッチを同時に押して、すべてのコントロール・チェンジ・メッセージの送受信を設定する画面に戻ります。

パラメーター・チェンジ (SYEX OUT)

本機のツマミやスイッチを操作してパラメーターの値を変更すると、システム・エクスクルーシブ・メッセージによってパラメーター・チェンジ等の情報を送信します。本機のパラメーターを外部に送信する場合は“SYEX OUT”を“On”に設定します。サウンド・エディタを使用するときは“SYEX OUT”を“On”にします。本機がパラメーター・チェンジを送信するか、しないかを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. [◀]、[▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに“SYEX OUT”を表示します。
3. パラメーター・チェンジ等の情報を送信するかしないかを設定します。バリュー・ツマミ[6]または[▲]、[▼]スイッチで選びます。
“OFF”： パラメーター・チェンジ等の情報を送信しません。
“On”： パラメーター・チェンジ等の情報を送信します。

NOTE パラメーター・チェンジ等のシステム・エクスクルーシブ・メッセージを受信すると“SYEX OUT”の設定に関わらず、本機のパラメーターやモード、プログラム番号が変わりません。

プログラム・データのバックアップ/リストア

プログラムなど本機的全データはシステムエクスクルーシブ・メッセージとして送受信することができます。システムエクスクルーシブ・メッセージを外部機器との間で送受信することをデータ・ダンプといいます。データ・ダンプを行うと、MIDIデータ・ファイルやシステムエクスクルーシブ・メッセージが送受信可能なシーケンサなどの外部機器に、本機で作ったプログラムをバックアップ (保存) できます。必要なときに本機にリストア (読み込み) することによって、たくさんのプログラムを入れ替えて使用することができます。また、2台のToneLab LEを接続してプログラム・データをコピーすることができます。

プログラム・データの転送には2種類あり、1プログラム単位で送信する方法と、全プログラムを1度に送信する方法があります。全プログラムを1度に送信する場合は出力先の設定やMIDIに関する設定なども含む本機すべてのデータが送られます。

NOTE データ・ダンプの送信は、“SYEX OUT”の設定に関わらず行うことができます。2台のToneLab LE間でプログラム・データをやりとりする場合は、“SYEX OUT”を“OFF”に設定することをおすすめします。“SYEX OUT”が“On”になっている状態でツマミ等を操作すると、もう一台のToneLab LEで意図しないパラメーターが変わってしまうことがあります。

バックアップ

1. 本機のMIDI OUTとデータ・ダンプを受信する機器のMIDI INを接続します。
2. 1つのプログラムだけを送信する場合は、プログラム・セレクト・モードで送信するプログラムを選びます。
3. [GLOBAL]スイッチを押します。
4. [◀]、[▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに“DUMP CUR”または“DUMP ALL”を表示します。
“DUMP CUR”（カレント・プログラム・データ・ダンプ）：
現在選んでいる1つのプログラムのデータを送信します。プログラムをエディット中（保存していない状態）のときは現在の設定を送信します。
“DUMP ALL”（オール・データ・ダンプ）：本機のすべてのデータを送信します。

5. データ・ダンプを受信する機器がデータを記録できる状態にします。

NOTE 詳しくはデータ・ダンプを受信する機器の取扱説明書を参照してください。

6. 本機の[WRITE]スイッチを押すと送信を開始します。送信が終了すると“COMPLETE”を表示し、手順4の画面に戻ります。（“DUMP ALL”で送信している間は“SEND”と表示されます。）

NOTE データの送信中は、本機のスイッチ、ペダルやノブに触れないでください。また、絶対に本機の電源をオフにしないでください。

リストア

1. 本機のMIDI INとデータ・ダンプを送信する機器のMIDI OUTを接続します。
2. 送信する側のMIDI機器と本機のMIDIチャンネルを合わせます。一度外部MIDI機器に送信したデータを再び本機で受信するときは、送信時のMIDIチャンネルに合わせてください。
3. データ・ダンプする機器からデータを送信します。全データ受信中は“RECEIVE”が表示され、正常に終了すると“COMPLETE”が表示されます。エラーが発生すると“ERROR”が表示されますので、送信し直してください。

NOTE 詳しくはデータ・ダンプを送信する機器の取扱説明書を参照してください。

NOTE データの受信中は、本機のスイッチ、ペダルやノブに触れないでください。また、絶対に本機の電源をオフにしないでください。

4. 1プログラム単位のデータを受信した場合は、保存先のバンクとプログラムを選び、保存してください。（p.26）

NOTE 保存しないと、本機のプログラム・メモリに書き込まれません。

HINT 全データを受信した場合は、すべてのデータが自動的に上書きされます。ただし、エディット中のデータ（エディット・バッファ）は変更されません。

工場出荷時の状態に戻す（再ロード）

本機のプログラムや、すべての設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

NOTE この操作を完了すると自分で作ったプログラムなど本機に保存してあったすべてのプログラムは消去され、出荷時のプログラムが読み込まれます。また、MIDIの設定も初期化されます。保存しておきたい設定がある場合は、データ・ダンプ等でデータをバックアップしてください。

1. [▲]、[▼]、[EXIT/TUNE]の3つのスイッチを押しながら、[STANDBY]スイッチを押して電源を入れます。
バンク・ディスプレイの“P”と、プログラムLED[1]～[4]が点滅し、ネーム・ディスプレイに“RELOAD?”と表示されます。押していたすべてのスイッチから手を離します。

2. 再ロードの作業を中止するときは[EXIT/TUNE]スイッチを押します。

3. [WRITE]スイッチを押すと、ネーム・ディスプレイに“LOADING”が表示され、再ロードが始まります。再ロードが完了するとネーム・ディスプレイに“COMPLETE”が表示され、自動的にプログラム・セレクト・モードに切り替わります。

NOTE 再ロード中は、絶対に電源をオフにしないでください。

故障とお思いになる前に

故障かな?と思ったら、まず以下のことを確認してください。
症状が改善されない場合は、コルグ・サービス・センターまでお問い合わせください。

1. [STANDBY]スイッチをオンにしても電源が入らない

- リア・パネルの[~AC9V]端子にAC/ACパワー・サプライが接続されていますか?
- コンセントにAC/ACパワー・サプライが接続されていますか?
- コンセントが故障していませんか?
- AC/ACパワー・サプライが損傷していませんか?

2. 音が出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか?
- ギター・シールドが正しく接続されていますか?
- ギター・シールドが断線していませんか?
- リア・パネルのOUTPUT [LEVEL]ノブが小さい値になっていませんか?
- GAIN、TREBLE、MIDDLE、BASS、VR GAIN、CH VOLUMEの設定を確認してください。アンプ・モデルによってはTREBLE、MIDDLE、BASSの値が小さいと、オリジナル・アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。またペダル・エフェクトを使用している場合は“DRIVE”、“LEVEL”の設定も確認してください。
- DRIVE、LEVEL、VOLUME、GAIN、VR GAINなどがアサインされたエクスペッション・ペダルがMINの位置になっていませんか?
- ミュート操作を行いませんでしたか?プログラム・セレクト・ペダルを押して、ミュートを解除してください。
- PROG LVLの設定が小さい値になっていませんか?

3. エフェクトがかからない

- 各エフェクト・セレクト・スイッチLEDが点灯していますか? LEDが消灯しているときはエフェクトがオフになっていません。
[MODEL]セレクト・スイッチを押してエフェクトをオンにしてください。
- モジュレーションの“DEPTH”、ディレイ、リバーブの“MIX”がそれぞれ小さい値になっていませんか?
[MODEL]セレクト・スイッチでエフェクトを選び該当するバリュー・ツマミを調整してください。
- バイパスしていませんか?
プログラム・セレクト・ペダルを押してバイパスを解除してください。

4. ACOUSTICの使用中に高音が歪む

- ドライブをかけすぎではありませんか?
- 出力の大きいギター(ハムバックing・タイプのピックアップ)を使用していますか?
ギターの音量を下げる、またはGAINの設定を下げてください。

5. ギター・アンプに接続した音が歪む、不自然な音がする

- “OUT SEL”が“Ln1”または“Ln2”(LINE)になっていませんか?
 - [LEVEL]が上がりすぎていませんか?
- 基本接続を参照して設定しなおしてください。

MIDIインプリメンテーション・チャート

[VOX Valvetronix]

Date : 2006. 4.20

ToneLab LE

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション…		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源 ON 時 設定可能	1 - 16 1 - 16	1 - 16 1 - 16	記憶される
モード	電源 ON 時 メッセージ 代用	× × *****	3 × ×	
ノート ナンバー :	音域	× *****	× *****	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	× ×	× ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	0 - 95	○	○	エフェクト・コントロール *C*2

プログラム チェンジ： 設定可能範囲	○ 0 - 119 *****	○ 0 - 119 0 - 119	*P
エクスクルーシブ	○	○	パラメータ・コントロール プログラム・データ・ダンプ *E*1
：ソング・ポジション コモン：ソング・セレクト ：チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム：クロック ：コマンド	× ×	× ×	
その他：ローカル ON / OFF ：オール・ノート・オフ ：アクティブ・センシング ：リセット	× × × ×	× × × ×	
備考 *P: GLOBAL "PCHG OUT" が On のとき送信する。 *C: GLOBAL "CCHG I/O" が On のとき、コントローラごとの設定に従って送受信する。 *E: GLOBAL "SYEX OUT" が On のとき送信する (リクエスト・メッセージへの応答については "SYEX OUT" の設定に関わらず送信する)。 *1: 本機専用のメッセージ以外に、デバイス・インクワイアリーに対応する。 *2: "AMP CTRL"、"CAB CTRL" の場合は、受信のみ。			

モード1： オムニ・オン、ポリ

モード2： オムニ・オン、モノ

○： あり

モード3： オムニ・オフ、ポリ

モード4： オムニ・オフ、モノ

×： なし

MIDI IMPLEMENTATIONの配付については、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください

仕様

アンブ・モデル数	16
キャビネット・モデル数	11
エフェクト数	ペダル・タイプ: 16 モジュレーション・タイプ: 11 ディレイ・タイプ: 11 リバーブ・タイプ: 11 ノイズ・リダクション: 1
プログラム数	120 (30バンクx 4プログラム)
オーディオ入力	INPUT x 1 INSERT RETURN x1
オーディオ出力	OUTPUT x 2 INSERT SEND x1 HEAD PHONES x 1 [LEVEL]ツマミ (OUTPUT, HEAD PHONES対応)
デジタルオーディオ出力	S/P DIF (オプティカル) x 1
真空管	12AX7 (ECC83) x1
信号処理	A/D変換: 24bit D/A変換: 24bit サンプリング周波数: 44.1kHz
チューナー	測定範囲: A0~C7 (27.5Hz~2093Hz) キャリブレーション: A=438Hz~445Hz
その他	MIDI IN x 1、MIDI OUT x 1、~AC9V x 1、STANDBYスイッチ
外形寸法 (W x D x H)	500 x 249 x 80 (mm)
重量	4.5 kg
付属品	AC/ACパワー・サプライ 9VAC 3.0A

* 仕様および外観は改良のため予告無く変更される場合があります。

索引

記号		V		チ	
OdB	20	Valve Reactor	10	チューナー	41
3バンド・イコライザー	25	VR GAINコントロール	27	チューブ	27
A		W		テ	
AMP/LINE	21	WRITE	26	ディレイ・エフェクト	37
AMPモデル	27	ア		ト	
AP1、2、3	21	アンプ・モデル	28	トーン・コントロール	27
C		イ		ナ	
CABINETモデル	30	イコライザー	25	名前	26
CC	46	エ		ハ	
CCHG I/O	46	エクスプレッション・ペダル	42	バイパス	41
CH VOLUMEコントロール	27	エクスプレッション・ターゲット・		バックアップ	46, 47
CHAIN	25	パラメーター	42	パラメータ・チェンジ	46
[CONTROL]ペダル	43	ペダルの感度	44	バルブ	18
D		エフェクトON/OFFモード	22	バルブ・リアクター	10
DELAYエフェクト	37	オ		バンク	22
DUMP ALL	47	オート・クロマチック・チュー		フ	
DUMP CUR	47	ナー	41	プリセット・プログラム	22, 24
E		オリジナル・バリュー	26	プレゼンス・コントロール	27
EQ	25	キ		プログラム	22
F		キーロック	23	プログラム・セレクト・モード	22
FACTOR	44	キャビネット	30	プログラム・チェンジ	45
G		キャビネット・モデル	30	プログラム・データ	46
GAINコントロール	27	キャリブレーション	41	プログラム名	26
L		ク		ヘ	
Ln1、2	21	クイックアサイン	42	ペダル・エフェクト	32
M		ケ		ホ	
MIDI	45	ゲイン	27	保存	26
MIDI CH	45	コ		ボリューム	27
MIDIチャンネル	45	工場出荷時の状態	48	ミ	
MODULATIONエフェクト	34	コントロール・チェンジ	46	MIDI機器	20
O		サ		ミュート	41
[ORIG]アイコン	26	サイレント・チューニング・モー		モ	
P		ド	41	モジュレーション・エフェクト	34
PCHG OUT	45	サウンド・エディタ	46	リ	
PEDALエフェクト	32	シ		リストア	46, 47
PRESENCEコントロール	27	真空管	18, 27	リバース・エフェクト	39
R		ス			
RELOAD?	48	スピーカー	30		
RENAME	26	セ			
REVERBエフェクト	39	接続	19, 45		
S		接続先の設定	21		
S/P DIF端子	20	タ			
Sound Editor	9	ダッキング	38		
SYEX OUT	46				

保証規定 (必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より1年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
 - ・ 消耗部品（スピーカー、真空管、電池など）の交換。
 - ・ お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
 - ・ 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
 - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - ・ 本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3ヶ月以内に限り無償修理いたします。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損傷につきましては、弊社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無料修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

アフターサービス

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。

商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

お客様相談窓口 TEL 03(3799)9086

- サービス・センター：
〒143-0001
東京都大田区東海5-4-1 明正大井5号営業所コルグ物流センター内
TEL 03 (3799) 9085

WARNING!

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です)

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
URL: <http://www.korg.co.jp/KID/>

VOX ToneLab LE

保証書

本保証書は、上記の保証規定により無料修理をお約束するものです。

お買い上げ日 年 月 日

販売店名

